# 看護学部教員業績目録

——2005年１月～12月——

## 基礎看護学教育研究分野

**〔学会発表〕**

1．内藤菜津子，高橋幸子：“統一体”としての調和の乱れを調整する看護援助に関する研究–看護者の対象認識に焦点を当てて–，千看会第11回学術集会集録，38–39，2005.
2．大井紅菜，河部房子，山本利江，和住淑子：自己免疫疾患患者への看護モデルの開発–尋常性天疱瘡のケース分析–，第25回日看科会講演集，186，2005.
3．山本利江，和住淑子，河部房子，大井紅菜：対人援助・支援技術固有の構造記述カテゴリーによる映像教材分析に関する研究，第25回日看科会講演集，275，2005.
4．河部房子，大井紅菜，内藤菜津子，高橋幸子，丸茂美智子，佐藤賀子，徳本弘子，北島祥子，山本利江：「思索への示唆」からＦ．ナイチンゲールの思想を読み取る試み，ナイチンゲール研究学会第26回研究懇談会，５－７，2005.
5．山本利江：看護にいかに倫理は内在するか，ナイチンゲール研究学会第26回研究懇談会，８–10，2005.

**〔その他〕**

6．山本利江：技術教育について，シンポジウム「現代学生の問題にせまる–卒業時の到達目標にどう近づけるか–」，第15回日本看護学教育学会学術集会集録，60，2005.
7．山本利江：看護学教育における模擬患者の活用の現状，LPC国際フォーラム集録，23–24，2005.

**〔研究状況〕**

当教育研究分野では，理論看護学の立場からナイチンゲール看護論を学問的に追究し，その継承・発展を目指した教育・研究活動を一貫して行っている．

昨年に引き続き，当教育研究分野が開発に取り組んできた看護学独自の研究方法論を活用した研究活動を展開した．内藤は，終末期患者への看護実践を「統一体としての調和」という観点から分析・評価し，癌性疼痛に苦しむ終末期癌患者の調和の乱れを調整する看護者の対象認識を明らかにした（１）．大井は，昨年の研究成果を元に，自己免疫疾患患者への看護モデルの開発に取り組み，事例分析からモデルを構成する要素を明らかにした（２）．

看護技術教育に関しては，一昨年科学研究費補助金を受けた萌芽研究「対人援助・支援技術の映像教材に固有な構造記述カテゴリーの抽出と評価に関する研究」の研究成果をまとめた（３）．本研究により，映像教材の差異を明らかにするための構造記述カテゴリーを見出すには，教育目的・教育内容・教育方法の連関を分析し構造分析を行う必要のあることが明らかとなり，さらなる研究課題が見出された．また，山本は，全国模擬患者学研究大会から要請を受け，国際シンポジウムにおいて模擬患者を看護技術教育に活用した教育実践について発表を行い，さらにパネリストとして，医学・看護学教育における模擬患者の戦略的な活用と展望について，医師・看護師・模擬患者らと共にディスカッションを行った（７）．また，現代看護学生の抱える問題と目標達成に近づけるための教育について，看護技術教育の観点から，現実に起こっている問題状況とそれをのりこえるための教育方法について提案した（６）．

ナイチンゲール看護論を学問的に追究する研究も継続して行っている．河部らは，これまで継続して行ってきた『思索への示唆』の読み取りを完結させ，第１章の記述から，Ｆ．ナイチンゲールの看護思想を読み取り，その内容を発表した（４）．山本は，卓越した看護実践を行った看護者の認識から看護の追究と倫理の実践とのつながりを論証した（５）．

# 看護教育学教育研究分野

**〔原　著〕**

1．宮芝智子，舟島なをみ，野本百合子：看護学演習における教授活動の解明-援助技術の習得を目標とした演習に焦点を当てて-．看護教育学研究，14(1)，9-22，2005.
2．金谷悦子，鈴木美和，舟島なをみ：看護系大学・短期大学に所属する新人教員の職業経験に関する研究-5年以上看護実践経験を持つ教員に焦点を当てて-．看護教育学研究，14(1)，23-36，2005.
3．上田貴子，亀岡智美，舟島なをみ，野本百合子：病院に就業する看護師が展開する卓越した看護に関する研究．看護教育学研究，14(1)，37-50，2005.
4．松田安弘，中山登志子，亀岡智美，舟島なをみ，横山京子，鈴木恵子，本郷久美子，小川妙子：看護学実習の目標達成に必要な教授活動の解明．看護教育学研究，14(1)，51-64，2005.
5．吉富美佐江，野本百合子，鈴木美和，舟島なをみ：新人看護師の指導体制としてのプリセプターシップに関する研究の動向．看護教育学研究，14(1)，65-75，2005.
6．三浦弘恵，舟島なをみ：教育ニードアセスメントツール-臨床看護師用-の開発．千葉看会誌，11(1)，25-30，2005.
7．三浦弘恵，舟島なをみ，鈴木恵子：在宅における看護実践自己評価尺度の開発．千葉看会誌，11(1)，31-37，2005.
8．山澄直美，舟島なをみ，定廣和香子，中山登志子，松田安弘，山下暢子：看護専門学校に所属する教員の職業経験の概念化．日本看護学教育学会誌，15(2)，1-12，2005.
9．舟島なをみ，三浦弘恵，亀岡智美：病院に就業する看護師の学習ニードに関係する特性の解明-院内教育のあり方の検討に向けて-．日本看護学教育学会誌，15(2)，13-23，2005.

**〔学会発表抄録〕**

10. Kameoka T., Funashima N., Yokoyama K., Suzuki S., Sugimori M.: The Relationships between Personal Attributes and Quality of Professional Activities of Nursing Faculty in Japan. The 16th International Nursing Research Congress, Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing, CD-ROM, 2005.
11. Yokoyama K., Funashima N., Kameoka T., Suzuki S., Sugimori M.: Quality of professional activities of Nursing Faculty in Japan. The 16th International Nursing Research Congress, Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing, CD-ROM, 2005.
12. Suzuki S., Funashima N., Kameoka T., Sugimori M.: Behavior of Public Health Nurses in Interaction with Clients and Their Families during Home Visits in Japan: A Qualitative Study. The 16th International Nursing Research Congress, Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing, CD-ROM, 2005.
13. 亀岡智美，中山登志子，舟島なをみ：看護系大学・短期大学教員と看護専門学校教員の教育ニードとその背景の比較．日看研誌，28(3)，139，2005.
14. 横山京子，舟島なをみ，山口桂子：小児医療に携わる看護師が直面する問題-医師との協働に焦点を当てて-．日看研誌，28(3)，166，2005.
15. 三浦弘恵，舟島なをみ：訪問看護師の学習ニード．日看研誌，28(3)，206，2005.
16. 鈴木美和，亀岡智美，舟島なをみ：病院に就業する看護師の職業経験の現状．日看研誌，28(3)，207，2005.
17. 横山京子，舟島なをみ：小児看護学教育研究の動向-1999年から2003年の研究に焦点を当てて-．日本看護学教育学会誌，15，86，2005.
18. 田中裕二，野本百合子，舟島なをみ：過去5年間の看護学教育研究の動向-解剖生理学の教育に関する研究に焦点を当てて-．日本看護学教育学会誌，15，127，2005.
19. 山下暢子，舟島なをみ，鈴木美和，野本百合子：看護学実習における学生の経験に関する研究．日本看護学教育学会誌，15，161，2005.
20. 村上みち子，野本百合子，舟島なをみ：看護学教員が職業上直面する問題の解明．日本看護学教育学

会誌，15，181，2005.
21. 三浦弘恵，舟島なをみ：病院に就業する看護師の教育ニードアセスメントツール開発–信頼性・妥当性の検証–．日本看護学教育学会誌，15，187，2005.
22. 亀岡智美，中山登志子，舟島なをみ：大学・短期大学の所属する看護学教員の教育ニード．日本看護学教育学会誌，15，188，2005.
23. 松田安弘，三浦弘恵，舟島なをみ，永野光子，山田敬子，塩手元子，中嶋和代，河村美枝子：A病院における看護師の教育・学習ニードの診断–診断結果に基づく院内教育プログラムの立案に向けて–．第36回日看会抄録集（看護教育），31，2005.
24. 三浦弘恵，舟島なをみ：保健師の学習ニードに関する研究．第36回日看会抄録集（看護教育），40，2005.
25. 亀岡智美，中山登志子，舟島なをみ：病院に就業する看護職者が職業上直面する問題の解明–職業活動の質向上につながる看護継続教育検討の基礎資料として–．第36回日看会抄録集（看護教育），106，2005.
26. 中山登志子，亀岡智美，舟島なをみ：看護学実習カンファレンスにおける教授活動の現状．第36回日看会抄録集（看護教育），115，2005.
27. 村上みち子，舟島なをみ，野本百合子：看護学教員の倫理的行動に関する研究．日本教育学会第64回大会発表要旨集録，128，2005.
28. 山下暢子，舟島なをみ：看護学実習に取り組む学生行動の概念化–学生理解に資する指導の探究–．日本教育学会第64回大会発表要旨集録，208，2005.
29. 横山京子，舟島なをみ，山口桂子，亀岡智美：小児医療に携わる看護師が知覚するストレスの傾向–他領域看護師との比較を通して–．第36回日看会抄録集（小児看護），86，2005.
30. 伊藤正子，舟島なをみ，三浦弘恵，野本百合子：患者の安全保証に向けて看護師が実施する確認の構造–院内教育への活用を目指して–．第36回日看会抄録集（看護管理），34，2005.
31. 三浦弘恵，舟島なをみ：院内教育における評価の現状と課題–プログラムの充実を目指して–．第36回日看会抄録集（看護管理），114，2005.
32. 永野光子，三浦弘恵，舟島なをみ，松田安弘，川村良子，高橋千晶：B病院における看護師の教育・学習ニードの診断–診断結果に基づく院内教育プログラムの立案に向けて–．第36回日看会抄録集（看護管理），129，2005.
33. Katakura N., Ishigaki K., Funashima N.: Development of an educational program for home care nurses helping psychiatric clients in the community. The 3rd international conference on community health nursing research, Program and Abstract, 117, 2005.
34. Tsukamoto T., Funashima N., Miura H., Nomoto Y.: Ethical Problems of Nursing Education Research in Japan: A Trend Over 15 Years. 38th Biennial Convention Sigma Theta Tau International, 2005.
35. Kameoka T., Murakami M., Funashima N., Sugimori M., Yokoyama K., Matsuda Y.: Important Factors for the Quality of Professional Activities of Nursing Faculty. 38th Biennial Convention Sigma Theta Tau International, CD–ROM, 2005.
36. 松田安弘，鈴木美和，舟島なをみ，三浦弘恵：院内教育プログラムの現状と問題．第25回日看科会講演集，137，2005.
37. 鈴木美和，三浦弘恵，舟島なをみ，野本百合子，松田安弘，永野光子：看護師が知覚する魅力的な院内教育プログラム．第25回日看科会講演集，138，2005.
38. 中山登志子，舟島なをみ：看護学実習カンファレンスにおける教授活動の質と教員特性の関係．第25回日看科会講演集，231，2005.
39. 三浦弘恵，舟島なをみ：異なる2病院に就業する看護師の教育・学習ニードの比較–院内教育プログラム立案に向けた有用性–．第25回日看科会講演集，233，2005.
40. 永野光子，三浦弘恵，舟島なをみ：病院に就業する看護師に対する効果的な学習支援に関する研究–学習ニードの有無と学習活動・学習成果の関係–．第25回日看科会講演集，234，2005.
41. 鈴木恵子，舟島なをみ，中山登志子，亀岡智美，横山京子，小川妙子，山澄直美，本郷久美子：諸外

国の看護継続教育に関する研究-英国の看護継続教育への影響要因に焦点を当てて-．第25回日看科会講演集，273，2005.

42. 横山京子，舟島なをみ，中山登志子，亀岡智美，小川妙子，鈴木恵子，山澄直美，本郷久美子：諸外国の看護継続教育に関する研究-カナダの看護継続教育への影響要因に焦点を当てて-．第25回日看科会講演集，274，2005.
43. 小川妙子，舟島なをみ，亀岡智美，中山登志子，横山京子，鈴木恵子，山澄直美，本郷久美子：諸外国の看護継続教育に関する研究-オーストラリアの看護継続教育への影響要因に焦点を当てて-．第25回日看科会講演集，274，2005.

〔報告書〕

44. 山口桂子，舟島なをみ：小児医療における医師と看護師の協働に関する問題-看護管理者及び看護スタッフに対する意識調査より-．厚生労働科学研究補助金（子ども家庭総合事業）小児科産科若手医師の確保・育成に関する研究，平成16年度報告書，主任研究者　鴨下重彦，433-440，2005.
45. 金川克子，太田喜久子，高見沢恵美子，舟島なをみ，堀内成子，山口桂子，渡辺洋宇，鴨下重彦，中山洋子：看護系大学における倫理審査の現状と課題，看護学研究連絡委員会報告，日本学術会議看護学研究連絡委員会，2005.
46. 舟島なをみ：看護の実践知の抽出と統合．千葉大学21世紀COEプログラム　日本文化型看護学の確立に向けて-実践知の抽出と統合-，第２回COEシンポジウム，55，2005.

〔その他〕

47. 舟島なをみ，松田安弘，山下暢子，吉富美佐江：看護師が知覚する看護師のロールモデル行動，日本看護学会誌，14(2)，40-50，2005.
48. 三浦弘恵，舟島なをみ：異文化間共同研究実施に向けた南フロリダ大学への再訪問-千葉大学21世紀COEプロジェクトの一環として（第２報）．看護教育，46(4)，334-337，2005.
49. 舟島なをみ：看護教育学研究の累積による看護継続教育の実現．看護教育学研究，14(2)，１-２，2005.
50. 舟島なをみ：研究成果に基づくプリセプター研修の実現と教育コーディネーターの養成．日本看護系学会協議会公開シンポジウム「ストップ・ザ・離職：看護系学会が貢献できること」，８，2005.

〔単行書〕

51. 舟島なをみ：看護のための人間発達学．第３版，医学書院，2005.
52. 舟島なをみ：第Ⅱ章　子どもの発達，及川郁子監修・編著，新版小児看護叢書１　健康な子どもの看護，メヂカルフレンド社，31-107，2005.

〔研究状況〕

次の９領域に寄与する研究活動を展開した．

①看護学教育・看護学研究の動向の解明：解剖生理学（18），小児看護学看護教育学研究（17），プリセプターに関する研究（５）の動向を解明した．また，わが国の過去15年間に実施された看護学教育研究における倫理的問題の動向（34）を解明した．

②看護学演習・実習における教授活動の質向上：学生との相互行為場面に焦点を当て，援助技術の習得を目指す看護学演習における教員の行動を表す概念を創出した（１）．また，メタ統合の手法を用いて先行研究の成果を統合し，看護学実習の目標達成に必要不可欠な教授活動（４）を解明すると共に，看護学実習カンファレンスにおける教授活動の現状（26），教授活動の質と教員特性の関係（38）を解明した．さらに，看護学実習中の学生理解に向け，その行動と経験を概念化（19，28）した．

③看護学教員の発達支援：専門学校に所属する教員の職業経験（８）及び，５年以上の看護実践経験を持つ大学・短期大学に所属する新人教員の職業経験（２）を概念化した．また，大学・短期大学に所属する教員の教育ニード（22），大学・短期大学と専門学校の教員の教育ニードの相違（13）を解明した．さらに，看護学教員が直面する問題（20）を解明し，教授活動の質の現状（11），教授活動の質と特性

との関係（10），教授活動に影響する要因（35）を解明した．加えて，看護学教員の倫理的行動（27）を解明した．

④看護職者の発達支援：看護師が展開する卓越した看護（3），看護師が知覚するロールモデル行動（47），在宅看護における保健師の行動（12）を解明した．また，保健師の学習ニード（24），訪問看護師の学習ニード（15）を解明すると共に，在宅における看護実践自己評価尺度（7）を開発した．さらに，病院に就業する看護師の学習ニードと学習活動・学習成果の関係（40），職業経験の現状（16）を解明した．

⑤看護継続教育プログラムの開発支援：看護職者が職業上直面する問題（25）の解明と共に，看護師の教育ニードアセスメントツール（6，21），訪問看護師の教育プログラム（33）を開発した．また，病院に就業する看護師の学習ニードに関係する特性（9）の解明と共に，院内教育プログラムの現状と問題（36），院内教育評価の現状（31），看護師が知覚する魅力的な院内教育プログラム（37）を解明した．さらに，教育プログラムに活用可能な知識として，患者の安全保証に向け看護師が実施する確認の構造（30）を解明した．

⑥病院との共同による教育プログラム開発：所在する地域の異なる2病院とのアクション・リサーチを展開し，各病院に所属する看護師の教育・学習ニードの診断結果に基づいて立案した教育プログラム（23，32），2病院の教育・学習ニードの差異（39）について報告した．

⑦諸外国の看護継続教育の変遷と影響要因：英国（41），カナダ（42），オーストラリア（43）における看護継続教育の変遷とその影響要因を解明した．

⑧小児医療に携わる看護師の支援：小児医療に携わる看護師が知覚するストレス（29），医師との協働において直面する問題（14），医師との協働に対する看護管理者及び看護スタッフの意識（44）を解明した．また，舟島は，小児看護学の対象者である子どもの看護に関する専門書（52）を著した．

⑨看護の対象理解の支援：舟島は，看護の対象である人間を理解するための専門書（51）を改訂した．

その他，舟島は，千葉大学21世紀COEプログラム第2回COEシンポジウムにおいて，シンポジウム2「看護の実践知の抽出と統合」（46）の司会を務めた．また，日本看護教育学学会15周年記念大会の学術集会会長として，看護教育学研究の成果を用いた看護継続教育の実現（49）について，学術集会会長講演を行った．さらに，日本看護系学会協議会公開シンポジウムにおいて，プリセプター研修に活用可能な研究成果を紹介すると共に，教育コーディネーターの養成（50）を提案した．加えて，異文化間共同研究の実施に向けた南フロリダ大学への訪問（48）について報告した．

## 機能・代謝学教育研究分野

**〔原　著〕**

1．Saeki Y. & Tanaka Y. L.: Effect of inhaling fragrances on relieving pricking pain. The International Journal of Aromatherapy, 15(2), 74–80, 2005.

2．Saat M., Tochihara Y., Hashiguchi N., Sirisinghe R.G., Fujita M. & Chou C.M.: Effects of exercise in the heat on thermoregulation of Japanese and Malaysian males. J Physiol Anthropol Appl Human Sci, 24(4), 267–275, 2005.

**〔学会発表抄録〕**

3．田中裕二，野本百合子，舟島なをみ：過去5年間の看護学教育研究の動向–解剖生理学の教育に関する研究に焦点を当てて–．日本看護学教育学会第15回学術集会抄録集，127，2005.

4．津村明美，田中裕二：血圧測定値に及ぼす深呼吸の影響．日本看護技術学会第4回学術集会講演抄録集，56，2005.

5．工藤由美，田中裕二：家族の声が大脳機能に及ぼす影響–脳波の周波数解析を指標として–．日本看護技術学会第4回学術集会講演抄録集，78，2005.

6．村田香織，田中裕二：背面開放端座位による大脳機能に及ぼす影響．日本看護技術学会第4回学術集会講演抄録集，86，2005.

7．Tochihara Y., Fujita M., Chou C.M. & Ogawa T.: Physiological strain of workers wearing protective clothing–Requirement for research to reduce the discomfort of firefighters. Proceedings of Fourth NRIFD Symposium–International symposium on Protective Clothing for Firefighting Activities, 1–8, 2005.
8．Tochihara Y., Fujita M., Chou C.M. & Tamura T.: Protective clothing and performance in hot environments. The Third International Conference on Human–Environment System ICHES'05 Proceedings, 29–32, 2005.
9．Tochihara Y., Fujita M. & Ogawa T.: Protective clothing–Related heat stress on firefighters in Japan. The 11th International Conference on Environmental Ergonomics, 137–139, 2005.
10. Kim T.G., Fujita M., Hashiguchi N. & Tochihara Y.: Physiological responses and performance during exposure to severe cold. The 11th International Conference on Environmental Ergonomics, 270–273, 2005.

**〔その他〕**

11. 舟島なをみ，森　恵美，太田節子，佐藤まゆみ，北池　正，田中裕二，清水安子：平成16年度千葉大学公開講座「看護におけるマネジメント力-改革に求められる能力と人材育成-」．千葉大学看護学部紀要，27，37-41，2005.

**〔研究状況〕**

4月から助手として藤田が茅野の後任として加わり，山田（教授）とともに「看護介入のリラクセーション効果に関する実験的研究」，「大気圧の変化と自律神経活動」，「馬脂油のスキンケアへの応用に関する実験的研究」など対人研究，動物実験を行っている．また，教育用電子テキストとして，藤田は「遺伝の科学」，山田は「感情と行動の脳システム形態機能学」を新たに作製した．

田中（助教授）は看護技術の科学的な検証についての研究を継続している．今年度は痛覚刺激に対する芳香療法（アロマセラピー）の効果についての研究成果を英文雑誌で報告した（1）．また，意識障害患者に対する援助技術の基礎的研究（5，6）や血圧測定値に及ぼす深呼吸の影響（4）についての研究成果を学術集会で発表した．また，平成15年度より開始されたCOEのサブプロジェクト「日本型看護職者キャリア・ディベロップメント支援システムの開発」において，看護基礎教育課程における専門基礎領域の研究動向について調査し，学術集会で発表した（3）．

## 病態学教育研究分野

**〔原　著〕**

1．Machida H., Nakajima S., Shikano N., Nishio J., Okada S., Asayama M., Shirai M. & Kubota N.: Heat shock protein 90 inhibitor 17–allylamino–17–demethoxy–geldanamycin potentiates the radiation response of tumor cells grown as monolayer cultures and spheroids by inducing apoptosis. Can Sci, 96 (2), 911–917, 2005.

**〔学会発表抄録〕**

2．小川俊子，加藤ひろ子，藤平富子，石持道雄，三浦君代，廣井あかね，中西登喜子，鈴木佳代子，佐藤友美，瀬田祐美子，政次富美子，岡田忍，鈴木明子，西尾淳子：望ましい手洗い方法の前後に視覚的評価を併用することによる手洗いの対する意識の変化について．環境感染，20(1)，109，2005.
3．小長谷百絵，岡田忍，水野敏子，西尾淳子，山脇正永：在宅における気管内吸引チューブの管理方法について．環境感染，20(1)，161，2005.
4．岡田忍，西尾淳子，金子記代，佐原理恵，藤井希理子，松尾知佳，山越明菜，鈴木明子，佐藤武幸：訪問入浴サービスにおける在宅における交差感染の可能性について．環境感染，20(1)，192，2005.
5．岡本有子，岡田忍，石垣和子，山本則子：高齢者訪問看護における家族支援の質評価に関する指標開

発．家族看護学研究，11(2)，58，2005.

6．岡田忍，西尾淳子，富樫亮文：尿を酸性にすることの意義に関する実験的検討．日本看護技術学会第4回学術集会講演抄録集，85，2005.

〔その他〕

7．高橋美央，鈴木明子：速乾式手指消毒剤の効果的な1回使用量の検討．第19回千葉県院内感染研究会，2005.

〔単行書〕

8．岡田忍：第6章感染と人体防御機構：看護の視点．北村聖，仙波純一，松尾ミヨ子（編）疾病の成り立ちと回復の促進．放送大学教育振興会，90-115，2005.

〔研究状況〕

本研究分野では，感染源や感染経路，宿主といった多角的な観点から感染防止に関する研究を行っている．今年度は，感染源の伝播防止に関しては，手洗い方法の教育に関する研究（2）および速乾式手指消毒剤の効果的な1回使用量について（7）報告を行った．感染を受ける宿主側に対するアプローチとしては，尿路感染の予防として尿を酸性に保つことの意義について実験的に検討した結果を学会発表した(6)．宿主の感染防止に関しては，皮膚を健康に保つこと，すなわちスキンケアも重要であり，高齢者のスキンケアを行う際に必要となる基礎的なデータを得ることを目的に花王との共同研究を行った．現在報告書を作成中である．スキンケアについては，COEプロジェクトの一環として岡田が病院管理システムの永野らと日本の文化的背景を踏まえたスキンケア方法に関する研究を行っており，その成果は第3回国際シンポジウムで発表予定である．また，在宅での感染防止対策についても継続して取り組んでいる（2，3）．在宅における気管内吸引カテーテルの管理方法については，今までのカテーテル等の細菌学的な検査に加え，汚染模擬痰を用いて実験的に吸引後の洗浄方法などについて検討を行っている．在宅においては，ペット飼育に関連する感染症やアレルギー性疾患を発症する可能性があり，このテーマに関して岡田は平成17年度の科学研究費を獲得した．今年度は主に採取した試料中の微生物を遺伝子学的な手法で同定するための実験環境の整備，質問紙の作成を行った．岡田は訪問看護の石垣，山本らの「高齢者訪問看護の質評価指標の作成」の研究分担者（5）として，清潔と感染防止についての質評価指標を作成した．

この他，西尾，岡田は茨城県立医療大学の町田らとheat shock protein 90のinhibitorである17AAGの放射線増感作用に関する研究を行った（1）．

## 母性看護学教育研究分野

〔原　著〕

1．森恵美，陳東：不妊治療によって妊娠した女性における不妊・不妊治療の経験，日本不妊看護学会誌，2(1)，20-27，2005.

2．森恵美，陳東，糠塚亜紀子：不妊・不妊治療経験が母性不安と対児感情に及ぼす影響，日本不妊看護学会誌，2(1)，28-35，2005.

3．陳東，森恵美：不妊治療を受けている夫婦の対処行動と夫婦関係との関連，日本不妊看護学会誌，2(1)，11-18，2005.

4．前原邦江，森恵美：産褥期における母親役割の自信尺度と母親であることの満足感尺度の開発-信頼性・妥当性の検討-．千大看紀要，27，9-18，2005.

5．中村康香，森恵美：妊娠経過における快適さの体験に関する研究．日本母性看護学会誌，5(1)，15-22，2005.

6．中野美佳，森恵美：褥婦自らが出産体験を統合することを促す看護．日本母性看護学会誌，5(1)，23-30，2005.

7．石井邦子，佐伯章子，林ひろみ，陳東，森恵美：出生前診断に関する意志決定プロセスに対する看護

について（第１報）−看護者の関わりの分析から−．日本母性看護学会誌，5(1)，46−53，2005.

8．佐伯章子，石井邦子，林ひろみ，陳東，森恵美：出生前診断に関する意志決定プロセスに対する看護について（第２報）−看護者の関わりの根拠の分析から−．日本母性看護学会誌，5(1)，54−60，2005.

〔学会発表抄録〕

9．Dong Chen, Emi Mori, Yoshimi Mochizuki, Mika Ando, Eiko Kashiwabara, Kuniko Ishii, Eliko Otsuki: Development of Nursing Intervention Program to Reduce Stress of the women undergoing infertility treatment. 9th Nursing Research Conference (Madrid, Spain). 331, 2005.

10. Yasuka Nakamura, Emi Mori: Acceptance of pregnancy and experience of pleasure and being comfortable during first pregnancy. 27th International Confederation of Midwives, Brisbane, Queensland, Australia, 2005.

11. Kunie Maehara, Emi Mori: Enjoyment of The Mother−Newborn Interaction During The Early Postpartum Period. 27th International Confederation of Midwives, Brisbane, Queensland, Australia, 2005.

12. 大月恵理子：第２子出生に伴う家族の適応家庭を促す看護介入に関する研究．第７回母性看護学会学術集会抄録集，35，2005.

13. 柏原英子，森恵美：早期新生児の哺乳行動に対する母親の体験の変化．第７回母性看護学会学術集会抄録集，43，2005.

14. 末次美子，森恵美：不妊治療後妊婦の妊娠に対する認知的評価・対処．第３回日本不妊看護学会学術集会抄録集，30，2005.

15. 伏屋未来，望月良美，大月恵理子：母児同室を行う褥婦の疲労感とその捉え方．第46回母性看護学会学術集会抄録集，46(3)，127，2005.

16. 柴原英美，柏原英子，森恵美：産褥早期の母親の授乳に伴う感情について．第46回母性看護学会学術集会抄録集，46(3)，138，2005.

17. 大月恵理子，陳東，望月良美，安藤みか，柏原英子，森恵美：不妊治療中の女性への看護介入プログラム展開のための研修会の実施とその評価．第46回母性看護学会学術集会抄録集，46(3)，182，2005.

18. 前原邦江，大月恵理子，森恵美：大学内に開設した「家族支援室」の活動−大学という場での家族看護実践・研究の展開と課題−．家族看護学研究，11(2)，20，2005.

19. 柿崎真芸，大月恵理子：妊娠期における母娘関係の距離的変化．第23回千葉県母性衛生看護学会プログラム，10，2005.

20. 逆井恵美，森恵美，安藤みか：夫立ち会い分娩をした夫の出産体験の受けとめに対する看護援助−家族関係の視点から−．第23回千葉県母性衛生看護学会プログラム，10，2005.

21. 久保真由美，大月恵理子：更年期における成人期の娘のサポートと，それに対する母親の思い．第23回千葉県母性衛生看護学会プログラム，12，2005.

〔その他〕

22. 石井邦子：看護教育機関における個人情報保護　臨地実習における個人情報の取り扱いについて．インターナショナルナーシングレビュー，28(5)，58−61，2005.

23. 森恵美：会長講演　不妊治療後の妊婦への看護：第３回日本不妊看護学会学術集会抄録集，30，2005.

24. 森恵美：サイコセラピューティックな看護６　不妊女性への看護カウンセリング．精神療法，31(5)，612−618，2005.

25. 森恵美，手島恵，SeoAe Yeo, Richard W. Redman：大学院指導改革に向けて　ミシガン大学大学院看護学博士後期課程の教育からの示唆．看護研究，38(4)，71−74，2005.

〔研究状況〕

本教育研究分野では，Reproductive　Healthに関連した健康問題を持つ女性や，妊娠・分娩・産褥期などにある女性の健康や母性性の発達を促す看護方法に関する研究を行っている．家族育成期の女性とその重要なパートナーである夫との関係，家族についても調査，検討を重ねている．本年度より石井が着任し，研究の充実が図られた．

森は，不妊治療によって妊娠した女性における，不妊治療の経験やその経験が母親役割獲得に関する影響についての研究成果（1，2），さらに，不妊治療中の夫婦の対処行動と夫婦の関係性に関する研究成果（3）を原著にまとめた．石井らは，出生前診断に関する意思決定プロセスへの看護者の関わりについての研究成果を原著にまとめた（7，8）．産褥早期の母親役割に関する尺度の開発しその信頼性妥当性を確認した（4）．妊婦への面接によって得られた質的データを分析し，妊娠経過における快適さの体験について明らかにした（5）．出産後数日の女性が出産体験を統合できるよう行った援助を分析し，褥婦自らが出産体験を統合することを促す看護を明らかにした（6）．

森を代表研究者として，昨年度より文部科学省科学研究費補助金（基盤研究(B)）を受けすすめている「不妊治療を受けている女性のストレスを軽減する看護介入プログラムの開発と実用化」について，その成果を国内外の看護学会で発表した（9，17）．本年度も，引き続き取り組んでいる．

COEプロジェクトで開設した家族支援室を利用して，サブプロジェクトB「日本文化型家族支援」の一環として取り組んでいる，出産後間もない時期にある母子と家族への育児支援の実践・研究について報告（18）し，現在も引き続き実践・研究を行っている．

## 小児看護学教育研究分野

**〔原　著〕**

1．金丸友，中村伸枝，荒木暁子，中村美和，佐藤奈保，小川純子，遠藤数江，村上寛子：慢性疾患をもつ学童・思春期患者の自己管理およびそのとらえ方-質的研究meta-studyを用いて-．千葉看会誌，11(1)，63-70，2005.

2．佐藤奈保，荒木暁子，中村伸枝，金丸友，中村美和，小川純子，遠藤数江：障害をもつ乳幼児の家族の日常生活における体験に関する研究　家族のノーマリゼーションを視点としたmeta-study.千葉看会誌，11(1)，71-78，2005.

3．中村伸枝，遠藤数江，荒木暁子，小川純子，村上寛子，武田淳子：高校生の食習慣と小学生時代からの食習慣の変化．千大看紀要，27，1－8，2005.

4．荒木暁子，兼松百合子，横沢せい子，荒屋敷亮子，相墨生恵，藤島京子：育児ストレスショートフォームの開発に関する研究．小児保健研究，64(3)，408-416，2005.

**〔学会発表抄録〕**

5．Tomo Kanamaru, Nobue Nakamura, Akiko Araki, Kazue Endo: Self-care and associated perceptions by Japanese school-aged children and adolescents with chronic conditions. International Journal for Human Caring, 9 (2), 55, 2005.

6．Miwa Nakamura, Nobue Nakamura, Akiko Araki, Junko Ogawa: Experiences of families with a pediatric oncology patient in the terminal stage: In home and hospice setting. The 6th Asia Pacific Hospice Conference, 207, 2005.

7．Akiko Araki, Naho Sato, Tomo Kanamaru, Nobue Nakamura, Miwa Nakamura: Parenting Stress in Japanese Mothers of Infants and Preschool Children with disabilities. The 7th International Family Nursing Conference, Final Program & Book of Abstracts, 144, 2005.

8．Naho Sato, Akiko Araki, Nobue Nakamura, Miwa Nakamura, Tomo Kanamaru, Junko Ogawa, Kazue Endo: Conditions of Normalization for Families of Children with disabilities. The 7th International Family Nursing Conference, Final Program & Book of Abstracts, 144, 2005.

9．金丸友，中村伸枝，荒木暁子，中村美和，佐藤奈保，小川純子，遠藤数江，村上寛子：慢性疾患の学童・思春期患者の自己管理とそのとらえ方-質的研究の2次分析：meta-studyを用いて-．日本小児看護学会第15回学術集会講演集，78-79，2005.

10．金丸友，中村伸枝，荒木暁子，中村美和，佐藤奈保，小川純子，遠藤数江：慢性疾患をもつ学童・思春期患者の親の患者への関わりと患者の自己管理について-質的研究meta-studyの手法を用いて-．家族看護学研究，11(2)，56，2005.

11．佐藤奈保，荒木暁子，中村伸枝，金丸友，中村美和，小川純子，遠藤数江：障害をもつ乳幼児の家族

の日常生活における体験　家族のノーマリゼーションを視点としたmeta-study.家族看護学研究，11(2)，32，2005.
12. 中村美和，中村伸枝，荒木暁子，佐藤奈保，小川純子：ターミナル期にある小児がんの子どもを抱える家族の体験．第21回日本小児がん学会プログラム・総会号，小児がん，42(3)，2005.
13. 中村伸枝，遠藤数江，金丸友：学童期から青年期の１型糖尿病患者の食習慣．日本糖尿病教育・看護学会誌，９特別号　第10回日本糖尿病教育・看護学会学術集会抄録集，147，2005.
14. 遠藤数江，中村伸枝，荒木暁子，小川純子，武田淳子：食習慣に焦点をあてた日常生活習慣改善プログラムの長期的効果の検討．第52回日本小児保健学会講演集，334-335，2005.
15. 荒木暁子，市原真穂，佐藤奈保，中村伸枝，小川純子，遠藤数江，金丸友：在宅の障害児を育てる母親の育児ストレス緩和の援助への試み　継続した面接による援助の効果の検討．家族看護学研究，11(2)，95，2005.
16. 市原真穂，塚原信江，池畑久美子，片山ゆかり，荒木暁子，佐藤奈保：母子入園における障害児の母親の育児ストレスに焦点をあてた看護援助の方法　育児ストレスショートフォームのパターンによる援助の検討．家族看護学研究，11(2)，94，2005.
17. 片山ゆかり，市原真穂，荒木暁子：肢体不自由児施設の母子入園における母子相互作用を促進する看護援助の効果の検討．日本小児看護学会第15回学術集会講演集，292-293，2005.
18. 田渕晶子，宮本ひろ子，藤代文江，岩田美奈子，竹中麻奈美，荒木暁子：重症心身障害児のターミナルケアにおける看護師の感じた困難とその関連要因．第36回日看会集録（小児看護），79，2005.
19. 仲西江里奈，石井洋子，市原真穂，荒木暁子：肢体不自由児施設における幼児期からの性に関するかかわりの現状と今後の課題．第52回日本小児保健学会講演集，452-453，2005.
20. 堂前有香，中村伸枝，荒木暁子：二分脊椎症の学童の学校生活のなかでの排尿セルフケア．日本小児看護学会第15回学術集会講演集，72-73，2005.
21. 堂前有香，中村伸枝，荒木暁子：二分脊椎症の学童の排尿セルフケアとその関連要因．家族看護学研究，11(2)，29，2005.
22. 齊藤千晶，尾出真理子，中村伸枝，荒木暁子：学童・思春期のアトピー性皮膚炎をもつ子どものセルフケア行動に対する意味づけと養育者の関わり．家族看護学研究，11(2)，53，2005.
23. 齊藤千晶，中村伸枝，荒木暁子：学童・思春期のアトピー性皮膚炎をもつ子どものセルフケア行動と意味づけおよび学校生活の実際．日本小児看護学会第15回学術集会講演集，76-77，2005.
24. 伊庭久江，中村伸枝，荒木暁子：先天性心疾患をもつ幼児・学童の“自分の疾患のとらえ方”．日本小児看護学会第15回学術集会講演集，112-113，2005.
25. 石川紀子，中村伸枝，荒木暁子：短期入院で手術を受ける幼児後期の子どもの手術に対する前向きな取り組みを目指した看護援助．日本小児看護学会第15回学術集会講演集，114-115，2005.
26. 齋藤美紀子，中村伸枝，荒木暁子：入院中の小児がんの幼児に対する遊びプログラムの実施．第25回日看科会学術集会講演集，173，2005
27. 斉藤礼子，伊丹朋子，成田智恵子，小川純子：入院時の採血・点滴挿入時の母親の気持ちと看護師の対応を考える．第36回日看会集録（小児看護），56，2005.

**〔単行書〕**

28. 中村伸枝：年齢による自己管理の目標．食事療法．日常生活での問題点と対処．酒・タバコ・その他の嗜好品．精神・心理的対応．成長発育・思春期．佐々木望（編）　新小児糖尿病　治療と生活．第１版，診断と治療社，145-148，26-45，87-101，104，117-121，135-139，2005.
29. 内田雅代，中村伸枝：学童の生活とケア．及川郁子（監・編）　健康な子どもの看護．第１版，メヂカルフレンド社，209-224，2005.
30. 遠藤数江：14小児の疾患　川崎病，麻疹．長谷川雅美，林優子（監）　疾患と看護過程実践ガイド．医学芸術社，856-878．2005.
31. 小川純子：14小児の疾患　気管支喘息，ファロー四徴症．長谷川雅美，林優子（監）　疾患と看護過程実践ガイド．医学芸術社，832-855，2005.
32. 市原真穂，荒木暁子：第Ⅳ章発達に障害のある子どもの健康管理　３障害のある子どもの個別の看護

スキル，呼吸障害とその管理．森秀子（編）　発達に障害のある子どもの看護．第１版，メヂカルフレンド社，245-256，2005.
33. 村杉恵り，荒木暁子：第Ⅳ章発達に障害のある子どもの健康管理　３障害のある子どもの個別の看護スキル，人工呼吸器-在宅に向けて．森秀子（編）　発達に障害のある子どもの看護．第１版，メヂカルフレンド社，257-263，2005.
34. 小沢雅代，市原真穂，荒木暁子：第Ⅳ章発達に障害のある子どもの健康管理　３障害のある子どもの個別の看護スキル，食べる機能の障害とその管理．森秀子（編）　発達に障害のある子どもの看護．第１版，メヂカルフレンド社，263-273，2005.
35. 榛葉順子，青山啓子，荒木暁子：第Ⅳ章発達に障害のある子どもの健康管理　３障害のある子どもの個別の看護スキル，筋緊張緩和．森秀子（編）　発達に障害のある子どもの看護．第１版，メヂカルフレンド社，274-281，2005.
36. 榛葉順子，青山啓子，荒木暁子：第Ⅳ章発達に障害のある子どもの健康管理　３障害のある子どもの個別の看護スキル，拘縮・変形の予防．森秀子（編）　発達に障害のある子どもの看護．第１版，メヂカルフレンド社，282-288，2005.
37. 宮本ひろ子，荒木暁子：第Ⅳ章発達に障害のある子どもの健康管理　３障害のある子どもの個別の看護スキル，骨折の予防．森秀子（編）　発達に障害のある子どもの看護．第１版，メヂカルフレンド社，289-294，2005.
38. 笹木貢，市原真穂，荒木暁子：第Ⅳ章発達に障害のある子どもの健康管理　３障害のある子どもの個別の看護スキル，けいれん発作のコントロール．森秀子（編）　発達に障害のある子どもの看護．第１版，メヂカルフレンド社，295-301，2005.
39. 渡邊みどり，仲西江里奈，荒木暁子：第Ⅳ章発達に障害のある子どもの健康管理　３障害のある子どもの個別の看護スキル，薬の管理．森秀子（編）　発達に障害のある子どもの看護．第１版，メヂカルフレンド社，302-305，2005.
40. 市原真穂，荒木暁子：第Ⅳ章発達に障害のある子どもの健康管理　３障害のある子どもの個別の看護スキル，特別な技術を要する排泄のケア．森秀子（編）　発達に障害のある子どもの看護．第１版，メヂカルフレンド社，305-314，2005.
41. 子安浩子，市原真穂，荒木暁子：第Ⅳ章発達に障害のある子どもの健康管理　３障害のある子どもの個別の看護スキル，感染予防．森秀子（編）　発達に障害のある子どもの看護．第１版，メヂカルフレンド社，315-318，2005.
42. 安蔵早苗，荒木暁子：第Ⅳ章発達に障害のある子どもの健康管理　３障害のある子どもの個別の看護スキル，皮膚の管理．森秀子（編）　発達に障害のある子どもの看護．第１版，メヂカルフレンド社，319-323，2005.
43. 池畑久美子，荒木暁子：第Ⅳ章発達に障害のある子どもの健康管理　３障害のある子どもの個別の看護スキル，歯の健康管理．森秀子（編）　発達に障害のある子どもの看護．第１版，メヂカルフレンド社，324-331，2005.
44. 田渕晶子，佐藤ユリ子，市原真穂，荒木暁子：第Ⅳ章発達に障害のある子どもの健康管理　３障害のある子どもの個別の看護スキル，生活リズムの調整．森秀子（編）　発達に障害のある子どもの看護．第１版，メヂカルフレンド社，332-340，2005.
45. 荒木暁子：２章　援助の基盤-相互作用を促進する，３　食事への援助-嚥下訓練を超えて，小児への食事援助．酒井郁子（編）　超リハ学．文光堂，71-86，2005.

**〔その他〕**

46. 中村伸枝，松浦信夫，佐々木望，佐藤浩一，宮本茂樹，兼松百合子：１型糖尿病の学童から青年の「糖尿病に関連した満足度（QOL）」質問紙の検討．日本糖尿病教育・看護学会誌，9(1)，4-13，2005.
47. 荒木暁子，兼松百合子，横沢せい子，荒屋敷亮子，相墨生恵，遠藤巴子：日本版Parenting Stress Indexスコアと自由記載の関係からみる乳幼児の母親の育児ストレス．家族看護学研究，11(1)，24-33，2005.

48. 出野慶子，中村伸枝，金丸友：１型糖尿病をもつ子どものきょうだいに対するグループディスカッションを通したサポートの試み．日本糖尿病教育・看護学会誌，9(1)，23-28，2005.
49. 宮本茂樹，染谷知宏，中村伸枝，佐々木望，松浦信夫：【内分泌・代謝】 保護者の離婚，死亡が血糖コントロールに与える影響およびひとり親家庭糖尿病児の血糖コントロール状態について．小児科臨床，58(3)，339-341，2005.
50. 遠藤数江，中村伸枝，荒木暁子，小川純子，村上寛子，武田淳子：学童・思春期の食習慣の現状．千大看紀要，27，43-48，2005.
51. 小川純子，伊庭久江，堂前有香，中村伸枝：看護師の行う親への育児支援に関する認識．日本小児看護学会誌，14(1)，30-35，2005.
52. 中村美和，中村伸枝，錢淑君，小川純子，荒木暁子：子どもと家族が望む緩和ケアをめざして．1-台湾における小児がんの子どもと家族への緩和ケア-．小児看護，28(10)，1460-1411，2005.
53. 小川純子，中村美和，佐藤奈保，金丸友，中村伸枝，荒木暁子：子どもと家族が望む緩和ケアをめざして．2-オーストラリアにおける子どもと家族への緩和ケア①-．小児看護，28(11)，1545-1549，2005.
54. 中村美和，中村伸枝，荒木暁子，小川純子：子どもと家族が望む緩和ケアをめざして．3-オーストラリアにおける子どもと家族への緩和ケア②-．小児看護，28(12)，1681-1685，2005.
55. 小川純子，佐藤奈保，金丸友，中村伸枝，荒木暁子，中村美和：子どもと家族が望む緩和ケアをめざして．4-オーストラリアにおける子どもと家族への緩和ケア③-．小児看護，28(13)，1816-1819，2005.
56. 中村伸枝：【小児難治性疾患のキャリーオーバーと成育医療　日常生活がより豊かになるために】キャリーオーバーした人の成育看護　１型糖尿病でキャリーオーバーした人の成育看護．小児看護，28(9)，1263-1267，2005.
57. 中村伸枝：【小児・思春期糖尿病　生活に根ざした療養指導】 小児・思春期糖尿病患者の生活への支援　家庭生活・学校生活へのアドバイス．糖尿病ケア，2(8)，836-839，2005.
58. 金丸友，中村伸枝：小児糖尿病サマーキャンプにおけるフットケア指導について．第11回千葉小児糖尿病研究会，2005.
59. 三品智美，中村伸枝，小川純子，遠藤数江：胆道閉鎖症の子どもの療養行動の実際と親のかかわりとの関連 「運動と休息のバランスの保ち方」に焦点をあてて．日本小児外科学会雑誌41(1)，110，2005.

**〔研究状況〕**

本年度より金丸が着任した．本年度の本教育研究分野の研究活動は，COEサブプロジェクトB「日本型家族支援」において行った３テーマ：慢性疾患をもつ学童・思春期患者の自己管理に関する研究（1，5，9，10)，障害をもつ乳幼児の家族の日常生活における体験に関する研究（2，8，11)，緩和ケアを必要とする小児と家族の看護（6，12，51-54）を中心に進められた．また，荒木は，海外先進実践教育支援プログラム（２月～７月）により，乳幼児期の障害児と母親の食事場面における母子相互作用行動についてNorth Carolina大学Chapel Hill校看護学部Professor Holditch-Davisより行動観察を用いた研究手法を師事し分析を行った．家族支援室を活用した，乳幼児期の障害児を育てる家族支援の研究も開始している（15)．

COE以外では，各教員が臨床とつながりをもちながら以下の研究を進めている．平成15-17年度科研費（基盤研究C，研究代表者：中村）を得た「学童期から青年期にかけての食習慣の形成」(3，13，14，49)．平成17～19年度科研費（基盤研究C，研究代表者：荒木）を得た「乳幼児期の障害児を育てる家族の意思決定を支える支援に関する研究」および，育児ストレス緩和の看護援助プログラムの開発（4，7，16-19，46)．平成16-18年度科研費（萌芽，研究代表者：小川）を得た「小児がんの子どもが治療に伴う痛みに主体的に関わるためのComputer Aided Instructionの開発」．平成17年度はCAIの開発が行われ，次年度は，千葉小児がん勉強会に参加している４施設と連携し，臨床での実証研究を予定している．平成17年度学長裁量経費（研究代表者：金丸）を得た「糖尿病をもつ学童・思春期のフットケアに対する看護援助指針の作成とその実施」(57)．今後は作成した看護援助指針の実証を進めていく予定．また，遠藤は，成長曲線を用いた小児糖尿病患児の成長の特徴，性差やインスリン量と成長の関係について研究を進めている．

# 成人看護学教育研究分野

〔原　著〕

1．眞嶋朋子，寺町優子，會田信子，若狭紅子，佐藤紀子，尾岸恵三子，水野敏子，原三紀子，海老澤睦，西田文子，小沼華子，佐藤あゆみ：CABG手術を受ける患者の日常生活の機能状態の変化と年齢および重症度との関連．日本循環器看護学会誌，Vol 1(1)，18-23，2005.

〔学会発表抄録〕

2．佐藤まゆみ，増島麻里子，柴田純子，神間洋子，佐藤禮子，菅原聡美，濱野孝子：外来通院がん患者の情報取得に関するニーズ．千葉看第11回学術集会集録，50-51，2005.

3．増島麻里子：がん患者のリンパ浮腫の予防・軽減における看護職者の知識・技術に関するニーズ．千葉看第11回学術集会集録，49，2005.

4．菅原聡美，佐藤まゆみ，増島麻里子，柴田純子，竹山富美子，金澤薫，佐藤順子，黄野麻子，小西美ゆき，松本ゆり子，大野朋加，畔蒜さとみ，吉田千文，長嶋健，宮澤幸正，阿部恭子，鈴木正人，矢形寛：外来通院する術後乳がん患者のニーズ．千葉看第11回学術集会集録，32-33，2005.

5．根本敬子，佐藤まゆみ，新野由子，大室律子，太田節子，佐藤禮子，門川由紀江，濱野孝子：看護系大学を卒業した新人看護職者の看護技術力育成におけるビデオ撮影の効果と課題．千葉看第11回学術集会集録，52-53，2005.

6．神間洋子，佐藤禮子，桑原麻理子：原発性悪性脳腫瘍患者の自分らしさの喪失．日本がん看護学会誌，19（特別号），240，2005.

7．馬場由美子，佐藤禮子，佐藤まゆみ：手術療法を受けた食道癌患者の退院後１ヵ月後における日常生活への取り組み．日本がん看護学会誌，19（特別号），117，2005.

8．吉田裕子，佐藤禮子，柴田純子：終末期患者と周囲の人々とのつながりを促進させるための看護介入．日本がん看護学会誌，19（特別号），261，2005.

9．神津三佳，佐藤まゆみ，眞嶋朋子，佐藤禮子：肝切除術を受けたがん患者の回復への取り組み．第25回日看科会誌講演集，209，2005.

10．井上菜穂美，眞嶋朋子，神間洋子，佐藤禮子：消化管閉塞を生じた終末期がん患者の苦悩．第25回日看科会誌講演集，263，2005.

11．上杉宣江，眞嶋朋子，増島麻里子，佐藤禮子：舌切除術を受けたがん患者の日常生活への取り組み．第25回日看科会誌講演集，288，2005.

12．藤澤陽子，柴田純子，眞嶋朋子，佐藤禮子：同種造血幹細胞移植を受ける成人造血器腫瘍患者の移植前の対処に関する研究．第25回日看科会誌講演集，265，2005.

13．大室律子，佐藤禮子，佐藤まゆみ，根本敬子，新野由子，太田節子：大卒新人看護師の看護実践能力の到達度評価．第25回日看科会誌講演集，318，2005.

14．Michiko Ito, Tomoko Majima, Mayumi Sato, Mariko Masujima, Junko Shibata, Yoko Kamma, Mariko Kuwabara, Noriko Akimoto: A Qualitative Meta-study of the relationship between nurse and cancer patients in Japan, 25th Annual Conference of the International Association for Human Caring, 104, 2005.

〔その他〕

15．柴田純子，佐藤まゆみ，増島麻里子，菅原聡美，竹山富美子，金澤薫，佐藤順子，黄野麻子，松本ゆり子，小西美ゆき，大野朋加，畔蒜さとみ，吉田千文，長嶋健，宮澤幸正，阿部恭子，鈴木正人，矢形寛：再発乳がん患者のがんと共に生きることに関するニーズ．千大看紀要，27，49-53，2005.

16．舟島なをみ，森恵美，太田節子，佐藤まゆみ（北池正，田中裕二，清水安子）：〔実践報告〕平成16年度千葉大学公開講座「看護におけるマネジメント力-改革に求められる能力と人材育成-」．千大看紀要，27，37-41，2005.

17．大室律子，佐藤禮子，太田節子，佐藤まゆみ，根本敬子，濱野孝子，門川由紀江：新人看護職者の看護技術習得状況と課題　大卒看護職者の調査研究から．看護教育，46(10)，868-871，2005.

18. 大室律子，太田節子，佐藤まゆみ，佐藤禮子，新野由子，根本敬子：看護系大学卒業後１年間の新人看護職者の看護実践能力を育成する教育システムの開発．平成15～16年度文部科学研究費補助金基盤研究(C)(2)研究成果報告書，2005.

〔単行書〕

19. 眞嶋朋子：４章　障害への対処を援助する　１．心筋梗塞という病への対処を援助する．６章　学習を支援する　３．心臓リハビリテーションプログラムにおける教育的要素．酒井郁子（編），超リハ学，文光堂，133-142，248-257，2005.
20. 眞嶋朋子：６　栄養摂取障害に伴う成人への援助，12　運動機能障害に伴う成人への援助．佐藤禮子（編），成人看護学，放送大学教育振興会，101-114，211-225，2005.
21. 佐藤まゆみ：８　感覚機能障害に伴う成人への援助．佐藤禮子（編），成人看護学，放送大学教育振興会，135-151，2005.
22. 佐藤まゆみ：心理的・精神的混乱への支援．安酸史子ほか（編），ナーシング・グラフィカ23　成人看護学―健康危機状況，メディカ出版，122-135，2005.
23. 増島麻里子（共著）：季羽倭文子，丸口ミサエ（監），がん患者と家族のサポートプログラム．青海社，2005.
24. 増島麻里子：リンパ浮腫に対するケア．射場典子，長瀬慈村(監)，乳がん患者へのトータルアプローチ　エキスパートナースをめざして，ピラールプレス，187-194，2005.

〔研究状況〕

成人看護学教育研究分野では，COEサブプロジェクト「日本文化型対人援助関係」ならびに「日本文化型家族支援」，心疾患看護，周手術期看護，がん看護，終末期看護，看護系大学院修了者支援に関する研究を行っている．

COEサブプロジェクト「日本型対人援助関係」における研究で，眞嶋らは，日本におけるがん患者と看護師間の関係性について明らかにし，国際発信した（14）．

心疾患看護について，眞嶋らはCABG手術を受ける患者の日常生活の変化に関する研究成果を発表し（１），心臓リハビリテーションについて著述した（19）．周手術期看護については，手術を受けたがん患者の取り組みに焦点を当てた研究成果（７，９，11）を，それぞれ発表した．がん看護については，科学研究費補助金を継続して受け，「がん患者の主体的療養を支援する外来看護モデルの外来看護実践への適用に関する研究」（基盤研究(B)）に積極的に取り組んでおり，その一環として，佐藤らは，外来通院がん患者のニーズを明らかにした（２）．また，「再発乳がん患者のQOLを高めるためのサポートグループプログラムの開発に関する研究」（基盤研究(C)）の一環として，柴田らは，再発乳がん患者のニーズ（15）を報告した．増島は，「早期段階のリンパ浮腫のあるがん患者に対する外来看護システムの構築」（若手研究(B)）に取り組み，リンパ浮腫における看護職者のニーズに関する研究成果を発表した（３）．さらに，増島は，リンパ浮腫のケア（24），ならびに，がん患者と家族のサポートプログラム（23）について著述した．神間は，悪性脳腫瘍患者の苦悩を明らかにした（６）．その他，外来通院する術後乳がん患者のニーズ（４），同種造血幹細胞移植を受ける患者の対処（12）に関する研究成果を発表した．終末期看護については，患者の苦悩や周囲とのつながりを明らかにした研究成果（８，10）を，それぞれ発表した．

その他，眞嶋は，栄養摂取障害や運動機能障害に伴う成人への援助について著述し（20），佐藤は，感覚機能障害に伴う成人への援助（21），心理的・精神的混乱への支援（22）について著述した．さらに，佐藤は，新人看護職者の看護技術力育成や看護実践能力に関する研究成果（５，13，17，18）を発表し，千葉大学看護学部公開講座において，看護におけるマネジメント力についてまとめ，著述した（16）．

## 老人看護学教育研究分野

〔原　著〕

１．正木治恵，清水安子，田所良之，谷本真理子，斉藤しのぶ，菅谷綾子，榎元美紀代，黒田久美子：

「日本型対人援助関係の実践知の抽出・統合」のための理論的分析枠組みの構築．千葉看会誌，11(1)，55-62，2005.

2．堀之内若名，正木治恵，清水安子：人工股関節置換術を受けた患者の自己管理上の問題　自己管理の認識と行動に注目して．整形外科看護，10(4)，398-405，2005.

3．清水安子，今村美葉，湯浅美千代：大学病院における成人慢性疾患外来の個別指導の実態と看護の課題．千大看紀要，27，19-28，2005.

4．清水安子，黒田久美子，内海香子，正木治恵：糖尿病患者のセルフケア能力の要素の抽出-看護効果測定ツールの開発に向けて-．千葉看会誌，11(2)，23-30，2005.

5．田所良之，菅谷綾子，榎元美紀代，清水安子，正木治恵：日常生活上の改善を要するが切迫感を抱きにくい対象者への対人援助技術-国内文献にみられる知見の統合-．千葉看会誌，11(2)，39-47，2005.

**〔学会発表抄録〕**

6．Ping Ping Zhang, Yasuko Shimizu, Harue Masaki: Developing a Medication Assessment Tool for Chinese Older Adult at Home. The 8th EAFONS Conference @ Ewha Women's University, College of Nursing Science, 2005.

7．Mikiyo Enomoto, Harue Masaki, Yasuko Shimizu: Nurse's Understanding and Treatment with Geriatric Patients who have Difficulty Communicating. The 8th EAFONS Conference @ Ewha Women's University, College of Nursing Science, 2005.

8．小粥薫，北島美奈，清水安子，正木治恵：視覚障害をもつ糖尿病患者の在宅におけるインスリン自己注射手技の工夫とその工夫に至る経過．日本糖尿病教育・看護学会誌，9（特別号），196，2005.

9．政田りり子，北島美奈，清水安子，正木治恵：糖尿病患者の服薬に対する思いと服薬自己管理の方法．日本糖尿病教育・看護学会誌，9（特別号），218，2005.

10．森田弥江，清水安子，正木治恵：糖尿病患者の足潰瘍・壊疽のリスクと予防行動に関する患者自記式アセスメントツールの開発．日本糖尿病教育・看護学会誌，9（特別号），184，2005.

11．中野裕子，清水安子，正木治恵：身体の心地よさに働きかける看護援助-糖尿病患者に対するマッサージを介したセルフケア援助の試み-．日本糖尿病教育・看護学会誌，9（特別号），111，2005.

12．森加苗愛，清水安子，正木治恵：中小企業における産官学連携による生活習慣病予防を目指した看護職者の活動から．日本糖尿病教育・看護学会誌，9（特別号），202，2005.

13．飯田直子，高橋千春，清水安子：外来通院２型糖尿病患者のインスリン治療の導入決定時影響する要因に関する調査．日本糖尿病教育・看護学会誌，9（特別号），177，2005.

14．高場慎介，菅谷綾子，清水安子，正木治恵：老人ケア施設に入所している超高齢者が日常生活を通して感じる喜びや楽しみについて．第36回日看会抄録集（老年看護），144，2005.

15．正木治恵：千葉大学21世紀COEプログラム第２回COEシンポジウム「日本文化型看護学の確立に向けて-実践知の抽出と統合-」；日本型対人援助関係の実践知の抽出・統合の試み．56-57，2005.

16．奥田朋子，田所良之，清水安子，正木治恵：神経内科病棟入院中の患者の主体性に関する研究．千葉看護学会第11回学術集会，30-31，2005.

17．正木治恵：第１回糖尿病教育のナショナルスタンダードに関する公開シンポジウム；糖尿病初期教育の課題．16，2005.

18．正木治恵：「看護実践能力の向上とジェネラリストの育成」；看護基礎教育における看護実践能力の育成．第10回日本看護サミットいわて分科会Ⅳ，７，2005.

19．張平平，清水安子，正木治恵：中国における高齢患者の服薬アセスメントツールの作成と有用性に関する研究．第25回日看科会学術集会講演集，295，2005.

**〔報告書〕**

20．研究代表者　森川浩子　研究分担者　出野慶子，稲垣美智子，内海香子，江川隆子，大谷由香，兼松百合子，黒江百合子，古賀久美子，清水安子，多崎恵子，土屋陽子，友竹千恵，中村伸枝，野口美和子，藤澤まこと，普照早苗，正木治恵，村角直子：日本における糖尿病自己管理アウトカム指標の開発．平成15・16年度　科学研究費補助金報告書，2005.

21. 竹尾恵子，小澤美枝子，佐藤エキ子，廣瀬千也子，正木治恵，高屋尚子，水野正之，中島健一郎：新人看護職員研修の推進に関する研究．平成16年度厚生労働科学研究費補助金（医療技術評価総合研究事業）総括研究報告書，1-87，2005.

〔単行書〕

22. 正木治恵，清水安子，瀬戸奈津子編集・執筆（日本糖尿病教育・看護学会編集）：糖尿病看護フットケア技術．看護協会出版会，2005.
23. 清水安子：最新高齢者看護プラクティス　疾病・障害を持つ高齢者の看護　8章治療的セルフケアと看護①食事の自己管理とその援助，②運動の自己管理とその援助．金川克子・野口美和子（監修），250-269，2005.
24. 田所良之：パーキンソン病への対処を援助する．酒井郁子（編），超リハ学．第1版，文光堂，143-151，2005.

〔その他〕

25. 正木治恵：質的研究でエビデンスは出せるのか．日看科会誌，25(2)，118-120，2005.
26. 正木治恵：透析患者のセルフケア支援．透析ケア　冬季増刊，12-23，2005.

〔研究状況〕

当研究分野では，慢性病看護と老人看護を2本の柱として教育・研究を行っている．

慢性病看護では，糖尿病患者会のサポートや千葉糖尿病スタッフ研究会の運営に関わり，研究・実践の基盤を作っている．そして，糖尿病患者の薬物自己管理に関する研究（8，9，13），糖尿病患者への新たな援助技術，介入方法の開発に向けた研究（10，11，12，17，20），さらに神経難病をもつ患者の主体性に関する研究（16），人工股関節置換術術後患者への外来での役割を探る研究（2），慢性疾患外来での看護師の役割を探る研究（3）に取り組んだ．

老人看護では，高齢者のためのアセスメントツールの開発にむけた研究（6，19），高齢者看護の専門技術の開発に向けた研究（7），超高齢者のあり様を探る研究（14）に取り組んだ．

また，COEサブプロジェクト「日本型対人援助関係」に取り組んでおり，その研究成果を発表した（1，15）．さらに正木は，看護実践能力の育成に関する研究に取り組んでおり，その成果を発表（18），報告（21）している．

今年度は，正木が「高齢者の主体的な健康を創出・支援するための老人看護専門技術の評価指標の開発」（文部科学省研究補助金（基盤研究C））と「新人看護職員研修の推進に関する研究」（竹尾恵子主任研究者，厚生労働科学研究費補助金），清水が「糖尿病患者の自己管理におけるパターンマネージメントの支援方法について」（文部科学省研究補助金（若手研究B）），田所が「パーキンソン病患者の日常生活行動への対処を促進する看護援助に関する研究」（文部科学省研究補助金（若手研究B））を受け，研究を進めている．

## 精神看護学教育研究分野

〔学会発表抄録〕

1. 石川かおり，岩﨑弥生，松岡純子，野﨑章子：精神疾患をもつ人の地域生活におけるセルフマネジメント上の課題．第25回日看科会学術集会講演集，168，2005.
2. 松岡純子，岩﨑弥生，石川かおり，荻野雅，野﨑章子：デンマークにおける精神障害者の主体性を維持しながら行う地域精神看護援助．第25回日看科会学術集会講演集，299，2005.
3. 野﨑章子，小泉香里奈，高橋美穂，三橋幸子，菅原薫：児童精神科看護に関する文献的研究．第46回日本児童青年精神医学会総会抄録集，206，2005
4. 小泉香里奈，安藤咲穂，野崎章子：児童精神科における神経性食欲不振症　クリティカルパスの導入の試み-神経性食欲不振症のパスの使用についてスタッフの意識調査より-，全国児童青年精神科医療

施設協議会第35回研修会報告集，84-93，2005
5．野崎章子，岩崎弥生，遠藤淑美，松岡純子，水信早紀子：精神障害と向き合って生活しなければならない人への援助-患者-看護師関係の構築と発展について-．千葉看会第11回学術集会集録，37，2005.
6．石川かおり，岩崎弥生：統合失調症をもつ人のセルフマネジメントに焦点をあてた看護援助-病院から地域への移行期における１事例の検討から-．第21回日本精神衛生学会大会発表論文集，50，2005.
7．岩崎弥生，石川かおり，野崎章子，清水邦子，宮崎澄子：精神障害者をケアする家族成員の困難-対処の関連性．家族看護学研究，11(2)，1491，2005.
8．荻野雅：精神科看護師の倫理的ジレンマ．日本精神保健看護学会第14回学術集会，18-19，2005.
9．石川かおり，岩崎弥生：地域で生活する精神障害者のセルフマネジメント（自己管理）とその関連要因．こころの健康，20(1)，79，2005.
10. Katakura, N., Ishigaki, K., Iwasaki, Y., & Yamamoto-Mitani, N.: Conceptualizing effective visiting nursing for the care of psychiatric clients living in the community. The 8th Annual Conference of East Asia Forum on Nursing Science (Advanced Practice Nursing: A Milestone of Evidence-Based Practice), 66, 2005.

**〔報告書〕**

11. 岩崎弥生，荻野雅，野崎章子，松岡純子，水信早紀子：精神障害者のリカバリーを促す看護援助の開発に関する研究．平成16-17年度文部科学研究費補助金［基盤研究(C)(2)課題番号16592195］報告書，2004.

**〔単行本〕**

12. 岩崎弥生：生涯発達過程にある看護の対象．佐藤禮子編著：看護学概説．放送大学教育振興会，35-47，2005.
13. 岩崎弥生：関わりと看護技術．佐藤禮子編著：看護学概説，放送大学教育振興会，89-103，2005.
14. 岩崎弥生：患者を含む一単位としての家族への看護．佐藤禮子編著　看護学概説．放送大学教育振興会，113-127，2005.
15. 岩崎弥生：健康生活コーディネート-面接技術．千葉県健康生活コーディネート事業検討委員会　健康生活コーディネーター教本５－１，１－５，2005.
16. 岩崎弥生：精神保健行動の支援について-ストレスとの関連から．千葉県健康生活コーディネート事業検討委員会　健康生活コーディネーター教本３－２，１－４，2005.

**〔その他〕**

17. 岩崎弥生：家族看護実践における文化的能力-「文化」の視点を取り入れた家族看護の可能性．家族看護学研究，11(2)，14，2005.
18. 岩崎弥生：「病いの語り」の精神看護への適用：人生を意味づける．医療人類学ワークショップ研究フォーラム「多分野連携における医療人類学の可能性：アーサー・クラインマン先生を招いて～それぞれのヘルス・ケアをつなぎ，紡ぎ，橋渡しする」，36-43，2005.
19. 荻野雅：看護基礎教育の中での倫理教育．看護展望，30(8)，17-24，2005.
20. 野崎章子，岩崎弥生：精神科看護師の臨床知識に関する研究-精神科看護のコツに焦点を当てて-，現代医療研究会Ⅱ月例会発表資料集，10-18，2005.
21. 松岡純子：デンマークにおける精神障害者の主体性を維持しながら行う地域精神看護援助．現代医療研究会Ⅱ月例会発表資料集，１－９，2005.

**〔研究状況〕**

精神看護学教育研究分野では，精神保健上の援助を必要としている人々とその家族，それを支える看護者，また文化的社会的少数派などを対象として，対象者の体験や援助方法に関する研究を継続している．

精神障害者を対象とした研究では，地域で生活する精神障害者が行うマネジメント上の課題について明らかにして，地域生活を支える援助について探求している（1，6，9）．精神障害を持つ児童を対象と

した看護に関する研究についても取り組みを始め，その成果を発表した（3，4）．また，平成16年度より科学研究費補助金（基盤研究(C)(2)　研究代表者岩﨑）を受け，精神障害者のリカバリー（回復）を促す看護援助に関する研究を進めており，経過を報告した（11）．

精神障害者の家族に関する研究では，家族の困難と対処の関連について明らかにして（7），家族に対する看護を文化の視点から論考した（17）．

精神的諸問題を抱える対象者理解とその援助方法に関する研究では，患者―看護師関係や援助のコツ，効果的な援助などの観点から精神看護援助について記述する（2，5，10）とともに，「文化」の視点から論考した（20，21）．また，病いを持つ当事者の語りを通して多分野連携の可能性について発表し（18），看護の対象者の捉え方や援助技術についてのテキストを執筆した(12，13，14，15，16)．さらに，平成15年度より科学研究費補助金（基盤研究(C)(2)　研究代表者荻野）を受け，精神科看護における看護倫理教育プログラムの開発に関する研究を継続して行っており，倫理に関する研究を発表した（8，19）．

## 地域看護学教育研究分野

**〔原　著〕**

1．井出成美，石川麻衣，宮﨑美砂子：住民の援助ニーズに応じた地域ケアシステム構築における行政保健師の看護実践知の創出-研究成果のメタ統合．千葉看会誌，11(2)，8-15，2005.

**〔学会発表抄録〕**

2．石川麻衣，牛尾裕子，武藤紀子，山田洋子，宮﨑美砂子：学士課程自由選択科目において自然災害に対する地域看護活動を学習した学生の学び．第8回日本地域看護学会講演集，52，2005.

3．佐藤紀子，杉田由加里，吉本照子：高齢者の家族介護者が在宅介護の価値を見出しながら，主体的に介護を含めた生活を維持・継続していくための看護実践知の創出-研究成果のメタ統合（その1）-．第8回日本地域看護学会講演集，95，2005.

4．山田洋子，牛尾裕子，飯野理恵：すべての住民が健やかで豊かな生活を送ることができる地域づくりに向けた看護実践知の創出-研究成果のメタ統合（その2）-．第8回日本地域看護学会講演集，96，2005.

5．宮﨑美砂子，井出成美，石川麻衣：住民の援助ニーズに応じた地域ケアシステム構築における行政保健師の看護実践知の創出-研究成果のメタ統合(その3)-．第8回日本地域看護学会講演集，97，2005.

6．武藤紀子，宮﨑美砂子，牛尾裕子，春山早苗，錦織正子，松永敏子，藤本眞一，石川麻衣，山田洋子：保健所企画調整部門に所属する保健師の健康危機管理における機能・役割の検討．第64回日公衛会抄録集，52(8)特，453，2005.

7．春山早苗，佐藤幸子，鈴木久美子，舟迫香，岸恵美子，篠澤俔子，錦織正子，松永敏子，藤本眞一，牛尾裕子，宮﨑美砂子：へき地の健康危機管理体制づくりにおける保健所保健師の機能・役割．第64回日公衛会抄録集，52(8)特，453，2005.

8．井伊久美子，宮﨑美砂子，奥田博子：中越震災被災者の健康ニーズ支援のあり方の検討-保健師の役割と派遣システム（1報）．第64回日公衛会抄録集，52(8)特，459，2005.

9．宮﨑美砂子，井伊久美子，奥田博子：中越震災被災者の健康ニーズ支援のあり方の検討-保健師の役割と派遣システム（2報）．第64回日公衛会抄録集，52(8)特，459，2005.

10．長谷川まゆみ，冨田直代，小林徹冶，中西雅夫，宮﨑美砂子：健康危機管理発生時における県保健師の機能・役割の一考察-福井豪雨災害対応の検証から-．北陸公衆衛生学会誌，32（学会特集号），33，2005.

11．佐藤紀子，井出成美，宮﨑美砂子：地域看護活動に必要な文化の視点の検討．第64回日公衛会抄録集，52(8)特，543，2005.

12．石川麻衣：公立保育所の看護職が行う予防活動の特徴．第64回日公衛会抄録集，52(8)特，662，2005.

13．本間靖子，宮﨑美砂子：生活の移行期にある障害児に対する保健師の援助活動-支援体制づくりに着目して-．千葉看会第11回学術集会集録，44-45，2005.

14. 浅野純代，平澤敏子，柴田則子，海法澄子，川又協子，村田昌子，平山朝子，宮﨑美砂子，荒賀直子，奥山則子，佐伯和子：保健師学生の実習指導のあり方について．第27回全国地域保健師学術研究会講演集，212，2005.
15. Noriko Sato: Study on Supporting Child Rearing in the Rural Communities in Japan. The 3rd International Conference on Community Health Nursing Research, 124, 2005.
16. Misako Miyazaki, Noriko Muto, Yuko Ushio, Sanae Haruyama, Masako Nishigori, Toshiko Matsunaga: Disaster Management in the Community Setting: The Experienced Activities of Japanese Public Health Nurses. The 3rd International Conference on Community Health Nursing Research, 152. 2005.
17. Yuko Ushio, Mai Ishikawa, Misako Miyazaki, Sanae Haruyama, Masako Nishigori, Toshiko Matsunaga: Current State of The Activities of Municipal Public Health Nurses Related to Disaster Management. The 3rd International Conference on Community Health Nursing Research, 153, 2005.
18. Miki Marutani, Misako Miyazaki: Administration of Public Health Nursing relative to residents' lifestyle, disposition and effect of local climate in a rural area of Japan. The 8th Annual Conference East Asia Forum On Nursing Science, 80, 2005.

**〔報告書〕**

19. 宮﨑美砂子，牛尾裕子，春山早苗，錦織正子，松永敏子，藤本眞一，武藤紀子，石川麻衣，山田洋子，佐藤紀子，関龍太郎，藤谷明子：地域の健康危機管理における保健所保健師の機能・役割に関する実証的研究．平成16年度厚生労働科学研究費補助金（健康科学総合研究事業）総括・分担研究報告書，1-79，2005.
20. 宮﨑美砂子，牛尾裕子，春山早苗，錦織正子，松永敏子，藤本眞一，武藤紀子，石川麻衣，山田洋子，佐藤紀子，関龍太郎，藤谷明子：地域の健康危機管理における保健所保健師の機能・役割に関する実証的研究．平成14～16年度厚生労働科学研究費補助金（健康科学総合研究事業）総合研究報告書，1-16，2005.
21. 宮﨑美砂子，牛尾裕子，春山早苗，錦織正子，松永敏子，藤本眞一，関龍太郎，藤谷明子，武藤紀子，山田洋子，石川麻衣：地域の健康危機管理における保健所保健師の活動指針．平成16年度厚生労働科学研究費補助金（健康科学総合研究事業）報告書別冊，1-31，2005.
22. 井伊久美子，宮﨑美砂子，奥田博子：新潟県中越地震被災者の健康ニーズへの緊急時および中期的支援のあり方の検討．平成16年度厚生労働科学研究費補助金特別研究事業分担報告書，1-68，2005.
23. 平澤敏子，浅野純代，海法澄子，川又協子，柴田則子，村田昌子，荒賀直子，奥山則子，佐伯和子，野村陽子，平山朝子，宮﨑美砂子：保健師学生の実習指導に関するあり方．平成16年度地域保健総合推進事業報告書，1-97，2005.
24. 宮﨑美砂子：健康診査後の保健指導．厚生労働科学研究費補助金特別研究事業最新の科学的知見に基づいた保健事業に係る調査研究．平成16年度総括・分担報告書（主任研究者：福井次矢），2-300-2-309，2005.

**〔単行書〕**

25. 石川麻衣：第2章介護予防の知識と技術　第3節閉じこもりの防止．財団法人総合健康推進財団(編)，保健師・看護師のための介護予防の知識と技術．初版，中央法規，65-84，2005.
26. 武藤紀子：第2章介護予防の知識と技術　第5節認知症およびその症状進行の予防．財団法人総合健康推進財団（編），保健師・看護師のための介護予防の知識と技術．初版，中央法規，103-123，2005.
27. 宮﨑美砂子：第3章介護予防に向けた活動の展開　第1節介護予防活動の基本的考え方．財団法人総合健康推進財団（編），保健師・看護師のための介護予防の知識と技術．初版，中央法規，158-161，2005.
28. 宮﨑美砂子：第3章介護予防に向けた活動の展開　第2節介護予防活動を展開するときの焦点．財団法人総合健康推進財団（編），保健師・看護師のための介護予防の知識と技術．初版，中央法規，162-164，2005.

29. 宮﨑美砂子：第３章介護予防に向けた活動の展開　第３節個別アプローチの展開方法．財団法人総合健康推進財団（編），保健師・看護師のための介護予防の知識と技術．初版，中央法規，165-178，2005.
30. 山田洋子：第３章介護予防に向けた活動の展開　第４節地域を基盤とした事業の展開方法．財団法人総合健康推進財団（編），保健師・看護師のための介護予防の知識と技術．初版，中央法規，179-195，2005.
31. 山田洋子：第３章介護予防に向けた活動の展開　第５節介護予防に向けた地域支援のネットワークづくり．財団法人総合健康推進財団（編），保健師・看護師のための介護予防の知識と技術．初版，中央法規，196，2005.
32. 宮﨑美砂子：第２章小児保健　小児保健の目的と動向．日本看護協会監修　新版保健師業務要覧．日本看護協会出版会，224-229，2005.

**〔その他〕**

33. 佐藤紀子，井出成美，宮﨑美砂子：地域健康支援における文化に関する文献検討．千葉看会誌，11(1)，79-86，2005.
34. 牛尾裕子，山田洋子，石川麻衣，武藤紀子，宮﨑美砂子：四年制大学の看護基礎教育課程における地域看護実践能力を高める教育方法の検討～地区活動演習の導入とその評価を通して～．千大看紀要，27，29-35，2005.
35. 宮﨑美砂子：健康危機時に求められる保健活動　保健師の健康危機事例への関与の実態から見えてきたもの．公衆衛生，69(11)，924-927．2005.
36. 宮﨑美砂子：健康危機管理と保健師の役割．地域保健，36(11)，8-15．2005.

**〔研究状況〕**

当教育研究分野は本年も地域看護学の教育方法に関する研究を継続して実施した．新規授業科目「災害と地域看護活動」の学習成果（２）及び地域看護実践能力向上をめざして実施した演習の評価（34）をまとめた．

21世紀COEプログラムの「日本型地域健康支援」サブプロジェクトにおいては，地域健康支援にかかわる看護実践知の体系化に向けメタ研究を実施し，佐藤，山田，宮﨑が発表した（１，３，４，５）．また，佐藤は地域健康支援における文化に関する文献検討（11，33）及び農村地域の特性を反映した子育て支援方法を明らかにした（15）．

本年は，平成14年度より厚生労働科学研究費補助金（健康科学総合研究事業）にて，宮﨑が主任研究者として実施してきた「地域の健康危機管理における保健所保健師の機能・役割に関する実証的研究」の最終年度であり，平成16年度総括・分担報告書（19），総合研究報告書（20）をまとめた．研究成果は，地域の健康危機管理における保健所保健師の活動指針としてまとめた（21）．武藤は保健所企画部門に所属する保健師の機能・役割を検討し（６），その他にも研究成果の一部を発表した（７，16，17，35，36）．宮﨑は，健康危機管理に関する研究についてさらに取り組んでいる（８，９，10，22）．

また，宮﨑を研究代表者とした「保健活動における訪問指導の効果的推進方法に関する研究」について，文部科学省科学研究費補助金（基盤研究Ｃ）を受けて継続して取り組んでいる．

石川は，文部科学省科学研究費補助金（若手研究Ｂ）を受けて実施した「保育所に所属する看護職の機能・役割に関する実証的研究」の成果を発表した（12）．

また，介護予防に関する単行書を執筆した（25，26，27，28，29，30，31）．

## 訪問看護学教育研究分野

**〔原　著〕**

1. Cadogan MP., Schnelle JF., Al-Sammarrai NR., Yamamoto-Mitani N., Cabrera G., Osterweil D., Simmons SF.: A standardized quality assessment system to evaluate pain detection and management

in the nursing home. Journal of the American Medical Directors Association, 6 (1), 1-9, 2005.

2．橋本修二，井上洋士，川戸美由紀，村上義孝，木村博和，市川誠一，中村好一，木原正博，福富和夫：HIV感染からその自覚と医療施設の受診までの時間的遅れ．日本エイズ学会誌，7(1)，31-36，2005.

〔学会発表抄録〕

3．井上洋士，村上未知子，有馬美奈，市橋恵子，岩本愛吉，大野稔子，山元泰之，関由起子，山崎喜比古，市川誠一，木原正博：HIV感染者向けのセックスライフ・ハンドブック作成の試み．第10回HIV/AIDS看護学会　研究発表会抄録集，3－4，2005.

4．Naoko Katakura, Kazuko Ishigaki, Yayoi Iwasaki, Noriko Yamamoto-Mitani: Conceptualizing Effective Visiting Nursing for the Care of Psychiatric Clients Living in the Community. The 8th Annual Conference East Asia Forum on Nursing Science (Korea), 66, 2005.

5．Ryuko Ito, Akiko Honda, Tomoko Akanuma, Junko Fujita, Kazuko Ishigaki: How Public Health Nurses in Japan Assist the Continuation of Home Care: A Qualitative Meta-Analysis -Chiba University School of Nursing The 21st Century Center of Excellence Project. The 8th Annual Conference East Asia Forum on Nursing Science (Korea), 98, 2005.

6．Ishigaki K., Shikimori H., Hasegawa K., Matsumura K., Suzuki T., Yamamoto-Mitani N.: Effect of nurse's home visits on family caregivers of the elderly with dementia in Japan. International Family Nursing Conference (Victoria, Canada), 122, 2005.

7．Mayuko Tsujimura, Kazuko Ishigaki: Perceptions of Wife Caregivers and Their Families Regarding the Health, Life Satisfaction, Caregiving Satisfaction and Social Support of Wife Caregivers. 7th International Family Nursing Conference (Victoria, Canada), 121, 2005.

8．Makiko Ohwaki, T.Miyazaki, H.Torii, Y.Iida, K.Ishigaki, et.al: Nursing Intervention for Japanese Mothers of Children with Mental Retardation. 7th International Family Nursing Conference (Victoria, Canada), 126, 2005.

9．山本則子，松岡恵子，石垣和子，藤井正子：認知機能障害を持つ高齢者に対する在宅認知リハビリテーション効果の評価．老年精神医学雑誌増刊号-Ⅱ，第20回日本老年精神医学会プログラム・抄録集，177，2005.

10．新井香奈子，石垣和子：高齢者のドライスキンに対する保湿クリーム塗布効果の検討．日本生理人類学会誌，10，76-77，2005.

11．新井香奈子，石垣和子：摂食・嚥下障害者の主介護者の介護の取り組みにおける「揺らぎと折り合いの日々」．家族看護学研究，11(2)，98，2005.

12．岡本有子，鈴木育子，岡田忍，石垣和子，山本則子：高齢者訪問看護における家族支援の質評価に関する指標開発．家族看護学研究，11(2)，58，2005.

13．望月絵美，石垣和子，山本則子：医療依存度の高い在宅療養者の家族介護者への効果的な看護-介護者の視点から-．家族看護学研究，11(2)，34，2005.

14．片倉直子，山本則子，石垣和子：精神疾患をもつ利用者と家族の関係を刷新する訪問看護師の援助，家族看護学研究，11(2)，22，2005.

15．胡秀英，辻村真由子，鈴木育子，山本則子，石垣和子，井上洋士：中国帰国者高齢期の健康維持・増進を目指す看護援助に関する研究Ⅰ-健康実態調査から．日本公衆衛生雑誌52(8)，第64回日本公衆衛生学会総会抄録集，521，2005.

16．Noriko Yamamoto-Mitani, Midori Nagano, Shinobu Okada, Ikuko Suzuki, Yasuko Ogata, Tadashi Kitaike, Katsuko Kanagawa, Harue Masaki, Mizue Suzuki, Ritsuko Yamada, Toshiko Abe, Eiko Amatsu, Junko Fukada, Yuko Okamoto, Kazuko Ishigaki: Developing Quality Indicators of Home Care Nursing for Older Adults in Japan. The 3rd International Conference on Community Health Nursing Research (Tokyo, Japan), 75, 2005.

17．Sayuri Kobayashi, Noriko Yamamoto-Mitani, Satoko Nagata, Sachiyo Murashima.: End-of-life Care for the Elderly with Dementia at Group-home Setting in Japan. The 3rd International Conference

on Community Health Nursing Research (Tokyo, Japan), 121, 2005.

18. Naoko Katakura, Kazuko Ishigaki, Naomi Funashima.: Development of an Educational Program for Homecare Nurses Helping Psychiatric Clients in the Community. The 3rd International Conference on Community Health Nursing Research (Tokyo, Japan), 117, 2005.
19. 山本則子，松岡恵子，石垣和子，藤井正子：認知症を持つ高齢者に対する在宅認知リハビリテーション．日本老年看護学会第10回学術集会抄録集，153，2005.
20. 岡本有子，鈴木育子，岡田忍，石垣和子，山本則子：高齢者訪問看護における排尿ケアの質評価に関する指標開発．日本老年看護学会第10回学術集会抄録集，118，2005
21. 辻村真由子，山本則子，石垣和子：認知症を持つ在宅要介護高齢者を介護する家族介護者が排便介助について抱く思い．日本老年看護学会第10回学術集会抄録集，150，2005.
22. 新井香奈子，石垣和子：訪問看護利用高齢者の皮膚の実態に関する研究−年間を通じた皮膚状態の変化−．日本老年看護学会第10回学術集会抄録集，135，2005.
23. 伊藤隆子，石垣和子：ケアマネジメントにおける倫理的ジレンマと対処方法−訪問看護ステーション所属の介護支援専門員の経験から．日本老年看護学会第10回学術集会抄録集，141，2005.
24. 胡秀英，上野まり，石垣和子：地域高齢者の転倒予防を目指す保健師の個別支援の有効性に関する研究．日本老年看護学会第10回学術集会抄録集，167，2005.
25. 片倉直子，山本則子，石垣和子：精神疾患をもつ利用者への効果的な訪問看護における観察・アセスメント・行動とその基盤となる目的の解明．第25回日看科会学術集会講演集，142，2005.
26. 深堀浩樹，山本則子，杉山智子，甲斐一郎，杉下知子：施設入所高齢者の家族介護者の経験に関する質的研究．第25回日看科会学術集会講演集，190，2005.

**〔報告書〕**

27. 石垣和子，山本則子，井上洋士：平成16年度木村看護教育振興財団補助事業「在宅看護論」教育の推進に向けた調査研究報告書，2005.
28. 井上洋士　他：薬害HIV感染者被害者（患者・家族）生活実態調査委員会　薬害HIV感染被害者（患者・家族）への面接調査報告，6−21，2005.
29. 石垣和子：海外出張報告アメリカ合衆国ミシガン大学，平成16年度千葉大学COEプログラム拠点報告書，156，2005
30. 石垣和子，山本則子，根本敬子：厚生労働科研費「地域で生活する障害児・者の自律生活を支援する看護プログラムの開発−居住型モデルの開発・実践−（H16−医療−023）（研究代表者杉下知子）総括・分担研究報告書，22−27，2005.

**〔単行書〕**

31. 石垣和子：第１章１節　介護予防の意義と考え方．石垣和子，北池正，宮﨑美砂子(監修)　保健師・看護師のための介護予防の知識と技術．中央法規，2−12，2005.
32. 山本則子：第１章２節　高齢者の理解１−５．石垣和子，北池正，宮﨑美砂子（監修）　保健師・看護師のための介護予防の知識と技術．中央法規，13−31，2005.
33. 片倉直子：第２章８節　高齢者へのフットケアの実際．石垣和子，北池正，宮﨑美砂子（監修）　保健師・看護師のための介護予防の知識と技術．中央法規，148−156，2005.
34. 井上洋士：Ⅶ．全身感染症　E.　HIV,HTLV−１．土肥義胤，山本容正，宇賀昭二（編）　スタンダード微生物学，文光堂，240−243，2005.
35. 石垣和子：Ⅳ　在宅ケアシステム論　１．川越博美，山崎麻耶，佐藤美穂子（総編集）　最新訪問看護研修テキストステップ１−①．日本看護協会出版会，127−137，2005.
36. 鈴木育子：Ⅳ　在宅ケアシステム論　２．川越博美，山崎麻耶，佐藤美穂子（総編集）　最新訪問看護研修テキストステップ１−①．日本看護協会出版会，137−141，2005.
37. 石垣和子：地域リハビリテーションにおける看護職の立場役割．酒井郁子（編集）超リハ学．文光堂，299−311，2005.
38. 石垣和子：家族看護における調整機能．中西睦子（監修）　家族看護学　TACSシリーズ13．エイド

出版，63-73，2005.

39. 石垣和子：介護家族への看護の展開．金川克子・野口美和子（監修）最新高齢者看護プラクティス 地域・在宅における高齢者への看護．中央法規，126-148，2005.

**〔その他〕**

40. 石垣和子：家族看護実践の展開　文化や社会に焦点を当てて，家族看護学研究，11(2)，11，2005.

**〔研究状況〕**

平成17年３月に井上洋士助手が，平成17年８月に鈴木育子助手が他校へ転出し，９月より片倉直子助手がCOEフェローより転入した．

1）COE研究：石垣は21世紀COEプログラムの拠点リーダーとして全体の総括を行うと同時に，Ｃ地域健康支援およびＤ身体機能調整サブプロジェクトにおける個別研究と統括を推進している．平成17年４月からＣ地域健康支援において「訪問看護」，「外来看護」，「介護者体験」の実践におけるメタ研究班を立ち上げ，石垣，山本，片倉が大学院生らとともに取り組んでいる．また清潔ケアに関する文献検討を鈴木が，排泄ケアに関する地域格差を石垣が，Eサブプロジェクトで看護効果測定尺度開発を井上が行った．

2）科研費研究：平成16年に引き続き，「老人訪問看護の質評価指標の開発：ベストプラクティスに基づく評価項目作成および標準化」（基盤研究Ｂ　研究代表者石垣和子）が，石垣，山本，鈴木および学内外の10人規模の研究組織で行われている．本年は結果の成果発表（12，16，20）を行うとともに，全国の訪問看護ステーションを対象に評価項目洗練のために質問紙調査を実施している．

また平成17年度より新たに，「痴呆高齢者家族の効果的な社会資源の活用を実現する支援方法開発のための質的研究」（基盤研究Ｃ　研究代表者山本則子）が，石垣，鈴木とともに開始された．

3）その他の研究費：①石垣が，厚生労働科研費「地域で生活する障害児・者の自律生活を支援する看護プログラムの開発-居住型モデルの開発・実践-（H16-医療-023）（研究代表者杉下知子）の分担研究者（30）として，平成16年から研究を継続している．

②片倉が，平成17年度からフランスベッド・メディカルホームケア研究・助成「在宅における効果的な褥瘡ケアの検討-訪問看護の職場教育の効果および訪問看護介入時期による褥瘡発症状態の評価」を，医療法人社団さつき会さつき台訪問看護ステーションと共同で開始した．

4）その他：日本家族看護学会第12回学術集会（2005年９月　千葉市海浜幕張）を，石垣が学術集会長として，学内外の実行委員などの協力のもとに開催した．

## 保健学教育研究分野

**〔学会発表抄録〕**

1．深田順子，北池正：在宅療養高齢者における摂食・嚥下障害看護の質評価に関する指標開発．日看研誌，28(3)，113，2005.

2．Ogata Y., Fukuda T., Mori K., Hashimoto M., Otosaka K.: Reliability and Validity of Relative Work Value measurements for Home-based Nursing Services for the Aged. The 18th Congress of the international Association of Gerontology, 159, 2005.

3．Ogata Y., Fukuda T., Hashimoto M., Mori K., Otosaka K: Relative Work Values for Home Care Nursing Services and Client Characteristics in Japan. The 5th World Congress of the International Health Economics Association, 138-139, 2005.

4．Ogata Y., Hashimoto M., Fukuda T., Mori K., Otosaka K.: A Study on Relative Work Values for Home Care Nursing Services in Japan. The 5th World Congress of the International Health Economics Association,72, 2005.

5．緒方泰子，新田淳子，乙坂佳代，福田敬，橋本廸生：在宅高齢者ケアにおける適切なリスク管理に向けた基礎的研究-全国調査の結果から．日本公衆衛生雑誌（特別附録，第64回日本公衆衛生学会総会

抄録集)，815，2005.
6．緒方泰子，橋本廸生，福田敬，新田淳子，乙坂佳代：在宅高齢者ケアにおけるリスク管理–訪問看護ステーションへの実態調査より–．病院管理（第43回日本病院管理学会学術総会演題抄録集)．42（suppl.)，121，2005.
7．永野みどり，江幡智栄，緒方泰子，手島恵，櫻井智穂子，山田尚子，向井千晶，黒田豊子，笹井智子，徳永恵子：大規模病院の褥瘡対策体制における機能と役割分担．病院管理（第43回日本病院管理学会学術総会演題抄録集)，42（suppl.)，77，2005.
8．江幡智栄，永野みどり，緒方泰子，黒田豊子，笹井智子，山田尚子，向井千晶，手島恵，櫻井智穂子，徳永恵子：褥瘡対策チームにおける多職種協働の実態．病院管理（第43回日本病院管理学会学術総会演題抄録集)，42（suppl.)，76，2005.
9．黒田豊子，永野みどり，江幡智栄，緒方泰子，手島恵，櫻井智穂子，笹井智子，徳永恵子，大浦武彦：大規模病院が保有する体圧分散寝具台数の現状．日本褥瘡学会誌，7(3)，468，2005.
10．永野みどり，江幡智栄，緒方泰子，手島恵，櫻井智穂子，山田尚子，向井千晶，徳永恵子，大浦武彦：大規模病院の褥瘡の有病率の現状．日本褥瘡学会誌，7(3)，386，2005.

**〔報告書〕**

11．緒方泰子，福田敬，新田淳子，乙坂佳代：高齢者ケアにおける適切なリスク管理に向けた基礎的研究．横浜市立大学医学部創立60周年記念事業「21世紀の安心・安全の医療をめざす研究・活動への助成」報告書，99–102，2005.

**〔単行書〕**

12．北池正：筋力向上トレーニング．石垣和子，北池正，宮﨑美砂子（監修）　保健師・看護師のための介護予防の知識と技術．中央法規出版，140–147，2005.
13．緒方泰子：高齢者のQOLと生きがい．石垣和子，北池正，宮﨑美砂子（監修）　保健師・看護師のための介護予防の知識と技術．中央法規出版，31–35，2005.

**〔その他〕**

14．北池正：実践につながるエビデンスへの接近．日看研誌，28(1)，27–28，2005.
15．北池正：保健管理学からみた機能看護学．岐阜県立看護大学機能看護学講座　教育と研究，3(1)：25–40，2005.
16．緒方泰子，乙坂佳代：訪問看護サービスの相対的価値付けに関する研究–看護師の主観的判断による仕事の測定–．訪問看護と介護，10(1)，41–46，2005.

**〔研究状況〕**

保健学教育研究分野は，地域や職域の集団を対象として，健康問題を生活環境との関連で解明することを目的に研究に取り組んでいる．

北池は，在宅高齢者の摂食・嚥下障害のリスクを評価する指標の開発を深田と共に行っている（1）．また保健学の看護学への適用を考えるためエビデンスへの接近方法（14）や，機能看護学との比較を行い（15）ながら検討をすすめている．

緒方は，在宅高齢者ケアのリスク管理に関する全国調査を行い（5，6，11)，訪問看護を対象とした看護の技術料評価に関する複数の研究を国際学会等において報告した（2，3，4，16)．また，国立バイア総合大学看護学部（ブラジル）において高齢者ケア等に関するセミナーを開催し看護研究者等との学術的交流を行った．

地域看護学講座での取り組みとして，介護予防のテキストの作成に続いて単行書の発行を行った（12，13)．

## 継続看護研究部

**〔原　著〕**

1．森由美子，本田彰子，赤沼智子：先輩看護師と後輩看護師の「看護師の態度」の捉え方の比較．第36回日看会論文集（看護総合），155-157，2005.
2．山下朋子，大野朋子，代宮司慶子，本田彰子：救急病院短期入院中の急性心筋梗塞患者の退院指導の効果について．第36回日看会論文集（看護総合），118-120，2005.

〔学会発表抄録〕

3．Ryuko Ito, Akiko Honda, Tomoko Akanuma, Junko Fujita, Kazuko Ishigaki: How Public Nurses in Japan Assist the Continuation of Home Care: A Qualitative Meta-Analysis. The 8th Annual Conference East Asia Forum on Nursing Science, 98, 2005.
4．本田彰子，赤沼智子，上野まり：ALS患者在宅療養における家族介護者支援の課題分析-訪問看護事例検討会の実践問題解決の取り組み-．家族看護研究，11(2)，37，2005.
5．伊藤幸子，佐瀬真粧美，工藤紀子，本田彰子，赤沼智子：研修者の院内研修の目標に対する理解．第23回千葉県看護研究学会集録，42-44，2005.
6．疋田文子，本田彰子：救急看護を指導する立場にある看護師における看護経験の捉え方-指導者側が持つ既卒看護師に対するイメージの調査から-．日本救急看護学会誌，7(1)，131，2005.
7．森由美子，本田彰子，赤沼智子：先輩看護師と後輩看護師の「看護師の態度」の捉え方の比較．第36回日看会抄録集（看護総合），81，2005.
8．西村宣子，本田彰子：新人看護師が危機を乗り越え職場適応できる支援体制-1年間の心理状態・やる気の変化と看護技術達成度から考える-．第36回日看会抄録集（看護管理），204，2005.
9．山本京子，宮脇由美子，浜田幸子，吉田あや子，山田喜美江，本田彰子：血液透析患者の透析受容の時期と看護師のかかわり-受容を示す言葉と態度-．日本透析医学界雑誌，38(1)，774，2005.
10．八馬弘美，青柳幸子，五木田理恵，本田彰子：在宅療養生活のイメージを共有する退院支援．第36回日看会抄録集（地域看護），50，2005.
11．山下朋子，大野朋子，代宮司慶子，本田彰子：救急病院短期入院中の急性心筋梗塞患者の退院指導の効果について．第36回日看会抄録集（看護総合），63，2005.
12．中澤裕子，松原裕理，鈴木美香，浅子恵利，本田彰子：外来化学療法における塩酸エピルビシン点滴投与による血管炎の現状．第16回日本在宅医療研究会学術集会抄録集，53，2005.
13．菅原聡美，佐藤まゆみ，増島麻里子，柴田純子，竹山富美子，金澤薫，佐藤順子，黄野麻子，小西ゆき，松本ゆり子，大野朋加，畔蒜さとみ，吉田千文，長嶋健，宮澤幸正，阿部恭子，鈴木正人，矢形寛：外来通院する術後乳がん患者のニーズ．千葉看会第11回学術集会集録，32-33，2005.

**〔単行書〕**

14．阿部恭子：診断のための検査にともなうケア-細胞診・組織診-．射場典子（監）乳がん患者へのトータルアプローチ．ピラールプレス，145-148，2005.
15．阿部恭子：内分泌療法にともなうケア．射場典子（監）乳がん患者へのトータルアプローチ．ピラールプレス，175-178，2005.

**〔その他〕**

16．本田彰子：患者および家族の意思決定への支援-筋神経系難病患者の人工呼吸器装着決定に焦点を当てて-．家族看護，3(1)，40-45，2005.
17．柴田純子，佐藤まゆみ，増島麻里子，菅原聡美，竹山富美子，金澤薫，佐藤順子，黄野麻子，小西美ゆき，松本ゆり子，大野朋加，畔蒜さとみ，吉田千文，長嶋健，宮澤幸正，阿部恭子，鈴木正人，矢形寛：再発乳がん患者のがんと共に生きることに関するニーズ．千大看紀要，27，49-53，2005.
18．阿部恭子：ホルモン療法を受ける乳がん患者へのケア．看護学雑誌，69(8)，822-825，2005.
19．阿部恭子：《海外誌から》意思決定の共有～概要と将来の問題～．がん看護，10(6)，546-550，2005.

20. 阿部恭子：乳がん看護認定看護師の教育カリキュラム（特別講演）．第6回乳癌最新情報カンファランス，12，2005.
21. 阿部恭子：今までのブレストケアナースとこれからのブレストケアナース（特別講演）．第3回日本乳癌学会近畿地方会，109，2005.

**〔研究状況〕**

継続看護研究部では，継続看護教育に関する教育実践および研究，在宅ケア・家族看護に関する教育実践および研究を行なっている．また，今年度10月より乳がん認定看護師教育課程を開設し，この課程の専任教員が赴任し，乳がん看護に関する教育実践および研究も，当研究部の活動に加わった．

継続看護教育に関する研究は，テーマ別研究研修「看護職の職場内での学習支援」の研修生が取り組んだ職場内での継続教育に焦点を当てた研究が多い（1，5－8）．また，看護実践の場における継続教育の一環として行なっている医療施設の看護師との共同研究は，救急看護，地域看護，がん看護等多領域に渡っている（2，9－12）．また，文部科学省科学研究費補助金を受けて進めている「医療施設における中堅看護職能力開発プログラム作成のための基礎調査」は，最終年度をむかえ報告の準備をしているところである．

在宅ケア・家族看護に関する研究は，COE地域健康支援サブグループの活動に関連したメタ研究（3）と，在宅療養支援を基にした家族看護の関する研究（4，16）がある．また，本年は成果の発表には至っていないが，プロジェクト研究「訪問看護師の専門的教育に関する研究」は，新たな研究者が加わり，現在学習プログラム開発が進んでいるところである．

乳がん看護および乳がん認定看護師教育に関しては，乳がん看護の実践的な教育研究の取り組み（13-15，17-19）と，乳がん看護認定看護師教育の重要性に関するもの（20，21）があり，今後さらに，乳がん看護認定看護師の活動の拡大と定着に向けた調査研究をすすめる予定である．

本研究部教員は，環境健康都市園芸フィールド科学教育研究センターの兼務教員であり，そこにおける研究活動に加わっている．特に，園芸療法に関しては，医療現場における園芸療法を実践していく中での問題提起や現状分析，新たな介入方法の検討に，看護学の視点および実践方法を活かせるよう取り組んでいる．

## ケア開発研究部

**〔原　著〕**

1. 正木治恵，清水安子，田所良之，谷本真理子，斉藤しのぶ，菅谷綾子，榎元美紀代，黒田久美子：「日本型対人援助関係の実践知の抽出・統合」のための理論的分析枠組みの構築．千葉看会誌，11(1)，55-62，2005.
2. 清水安子，黒田久美子，内海香子，正木治恵：糖尿病患者のセルフケア能力の要素の抽出-看護効果測定ツールの開発に向けて-．千葉看会誌，11(2)，23-30，2005.

**〔学会発表抄録〕**

3. 及川由記子，黒田久美子，佐藤昭枝：新採用予定者を対象とした採用前看護技術演習の取り組み．第5回神奈川県看護教育フォーラムプログラム・発表抄録集，21-24，2005.
4. 及川由記子，黒田久美子，佐藤昭枝：卒後2年目看護師の看護実践能力向上を目指した院内教育プログラム．共済医報，54（Suppl），163，2005.
5. 芝岡多美子，首藤照子，黒田久美子，矢野かおり，梅澤晴子，石塚志津代，藤川玲子，佐藤昭枝：電子カルテ導入　看護部WG活動の実際と経過．共済医報，54（Suppl），128，2005.
6. 野間もえぎ，根本敬子，太田節子：地域中核病院における認知症高齢患者の退院支援の実際-受け持ち看護師への面接調査を通して-．第36回日看会抄録集（老年看護），58，2005.
7. 梅園夕子，根本敬子，太田節子：神経内科病棟における後期高齢患者の退院への関わり-受け持ち看護師への面接調査を通して-．第36回日看会抄録集（老年看護），127，2005.

8．根本敬子，佐藤まゆみ，新野由子，大室律子，太田節子，佐藤禮子，門川由紀江，濱野孝子：看護系大学を卒業した新人看護職者の看護技術力育成におけるビデオ撮影の効果と課題．千葉看会第11回学術集会集録，52-53，2005.
9．大室律子，佐藤禮子，佐藤まゆみ，根本敬子，新野由子，太田節子：大卒新人看護師の看護実践能力の到達度評価．第25回日看科会学術集会講演集，318，2005.

〔報告書〕
10．大室律子，佐藤禮子，佐藤まゆみ，太田節子，根本敬子，新野由子：看護系大学卒業後１年間の新人看護職者の看護実践能力を育成する教育システムの開発．平成15年度～16年度文部科学研究費補助金基盤研究(C)(2)研究成果報告書，2005.
11．石垣和子，山本則子，根本敬子：地域で生活する障害児・者の自律生活を支援する看護モデルプログラムの開発-居住型モデルの開発・実践-．厚生労働省科学研究費補助金(医療技術評価総合研究事業)総括・分担研究報告書，22-27，2005.
12．諏訪さゆり，酒井郁子，松浦美知代，斎藤素江，湯浅美千代，吉本照子，根本敬子，菅谷綾子：平成16年度老人保健健康増進等事業報告書　地域での各種サービスのあり方とサービスの質の確保に関する研究「医療依存度の高い認知症高齢者のケアにおける介護保険事業所との連携に関する研究事業」．認知症介護研究・研修東京センター，2005.

〔その他〕
13．大室律子，佐藤禮子，太田節子，佐藤まゆみ，根本敬子，門川由紀江，濱野孝子：新人看護職者の看護技術拾得状況と課題-大卒看護職者の調査研究から-．看護教育，46(10)，868-871，2005.

〔単行書〕
14．黒田久美子：Ｑ＆Ａ　糖尿病と水虫は関係ありますか？　血圧と糖尿病は関係ありますか？．安酸史子（編著）糖尿病合併症ナーシング　患者さんの気もちに寄り添うアプローチ．医歯薬出版，176-180，2005
15．根本敬子，吉田千文：手術を受ける高齢者への援助．野口美和子（編）最新　高齢者看護プラクティス　疾病・障害をもつ高齢者の看護．中央法規出版社，208-226，2005.

〔研究状況〕
平成16年４月に老人看護研究部からケア開発研究部へ名称変更があり，黒田久美子助教授が着任した．ケア開発に関する幅広い文献検討や概念分析等により，ケア開発研究部としての教育研究の課題を焦点化する活動に取り組んでいる．

黒田は，COEサブプロジェクト「日本型対人援助関係」の研究（１）に参加し，またサブプロジェクト「日本型看護効果測定ツール開発」において，糖尿病患者のセルフケア能力の観点から看護効果測定ツール開発へ向けた研究を発表した（２）．また病院の看護師の看護技術向上や看護電子カルテシステムに関する前職での取り組みを発表し（３-５），ケア開発へのニードの検討にいかしている．また糖尿病患者への看護アプローチについての分担執筆に参加した（14）．

根本は，昨年度の実施したセンター事業　テーマ別研究研修「高齢患者の継続看護」に関連して，高齢患者の退院支援の実際を発表した（６，７）．また，文部科学省科学研究費補助金（基盤研究(C)(2)）による「看護系大学卒業後１年間の新人看護職者の看護実践能力を育成する教育システムの開発」（研究代表者大室律子）の研究分担者として研究成果を発表した（８，９，13）．さらに文部科学省科学研究費補助金（基盤研究(B)(1)）による「介護保健施設における痴呆症をもつ入所者に関するリスクマネジメントの導入と理論化」（研究代表者　野口美和子）の研究分担者として，介入研究に取り組んでいる．COEでは，Ｄ（身体機能調整）グループの研究に取り組んでいる．

## 看護管理研究部

**〔原　著〕**

1．坂井都美子，大室律子：経年時的にみた新卒看護師の就職直後看護技術習得の実態．第35回日看会論文集（看護管理），87，2005.
2．松崎由美，大室律子：20歳代看護職者の職業継続意思に関する実態調査．第35回日看会論文集（看護管理），176，2005.
3．上村浩太，大室律子：看護師の自己教育力にメンタルヘルスが及ぼす影響-看護師への生涯学習支援に向けて-．第35回日看会論文集（看護管理），360，2005.

**〔学会発表抄録〕**

4．井出成美，新野由子，大室律子：市町村の保健福祉行政計画・事業計画策定およびその運営における保健師の経験．第8回日本地域看護学会学術集会抄録集，92，2005.
5．大室律子，濱野孝子：助産師の復権に関する政策的検討．第46回日本母性衛生学会学術集会抄録集，194，2005.
6．谷井真弓，大室律子：新卒看護師における看護技術の自信への支援-基本的な看護技術の自信の程度と経験頻度の調査から-．第36回日看会抄録集（看護管理），91，2005.
7．本吉恵子，新野由子：精神医療の現状に即した精神科看護師の臨床看護実践能力の向上を目指して-精神看護に携わる看護師の実態調査から分析-．第36回日看会抄録集（看護管理），92，2005.
8．佐藤美幸，新野由子：特別個室病棟の特性と看護のあり方の一考察．第36回日看会抄録集(看護管理) 280，2005.
9．根本敬子，佐藤まゆみ，新野由子，大室律子，太田節子，佐藤禮子，門川由紀江，濱野孝子：看護系大学を卒業した新人看護職者の看護技術力育成におけるビデオ撮影の効果と課題．千葉看第11回学術集会集録，52-53，2005.
10．新野由子：プロライフ，プロチョイス論争の到来か．第24回日看思春期学会総合学術集会抄録集，111，2005.
11．大室律子，佐藤禮子，佐藤まゆみ，根本敬子，新野由子，太田節子：大卒新人看護師の看護実践能力の到達度評価．第25回日看科会学術集会講演集，318，2005.

**〔報告書〕**

12．大室律子，太田節子，佐藤まゆみ，佐藤禮子，新野由子，根本敬子：看護系大学卒業後１年間の新人看護職者の看護実践能力を育成する教育システムの開発．平成15年度～平成16年度文部科学研究費補助金基盤研究(C)(2)研究成果報告書，1-147，2005.
13．高橋榮明，藤澤由和，山手茂，淡路剛久，西野喜一，Kuszler Patricia C.,児玉安司，岩田太，平野哲郎，新野由子，山口斉昭，佐藤雄一郎，宮本敦史：国内外諸領域における他領域ADR制度などに関する研究．平成16年度厚生労働科学研究費補助金特別研究報告書，2005.

**〔その他〕**

14．大室律子：現職の看護職者の看護学研究　研修に携わっている立場から．国立病院看護研究学会誌，45-47，2005.
15．松本幸枝，布施千草，大室律子，合田典子：介護福祉士資格を持つ看護師の看護・介護についての認識．看護教育，46(5)，412-417，2005.
16．田村やよひ，大室律子：看護行政・政策の動向と看護教育．看護教育，46(8)，684-690，2005.
17．大室律子，佐藤禮子，太田節子，佐藤まゆみ，根本敬子，濱野孝子，門川由紀江：新人看護職者の看護技術習得状況と課題-大卒看護職者の調査研究から-．看護教育，46(10)，868-871，2005.

**〔単行書〕**

18．新野由子：ウイメンズヘルスナーシング概論　女性の健康と看護　高橋真理（編）．女性の健康と制

度・統計，ヌーベルヒロカワ，251-257，2005.
19. 新野由子：ウイメンズヘルスナーシング概論　女性の健康と看護　高橋真理（編）．女性の健康と法的問題，ヌーベルヒロカワ，265-275，2005.

**〔研究状況〕**

看護管理研究部では，社会的に期待されている医療安全看護サービスと患者満足の観点から，看護職者の人材開発と看護政策に関する研究を広範囲に行っている．

看護職者の人材育成については，平成15～16年度に渡り文部科学省科学研究費を受け，大室を研究代表者とし，「看護系大学卒業後１年間の新人看護職者の実践能力を育成する教育システム開発」の研究報告書（12）まとめた．

この研究については学会発表（９，11），誌上発表（17）を行った．

さらに，17年度には大室を研究代表者として，看護管理研究部寄付金を受け「国公私立大学病院副看護部長の看護管理研修に関わる実践的教育プログラム開発」の研究をすすめている．

プロジェクト研究は，看護教育制度と教育環境に関する研究を企画し，現職教員と共同研究者が今日的問題を中心に研究成果発表（15）を行った．

テーマ別研修研究では，看護職者の専門性を高めるために，医療施設における看護実践能力の育成について企画し，新卒看護師の就職直後看護技術習得の実態，20歳代看護職者の職業継続意志に関する実態調査，看護師の自己教育力（１，２，３）について発表した．また，新卒看護師における看護技術の自信への支援，特別個室病棟の特性と看護のあり方，精神科看護師の臨床看護実践能力の向上に関する研究を積極的に取り組み発表（６，７，８）した．

COE研究では，市町村の保健福祉行政計画・事業計画策定及びその運営における保健師の経験について研究し，発表（４）した．さらに看護政策に関する研究は殆ど研究されていないために，保健・医療・福祉政策の中で看護が果たす役割，看護を変えていくため今後の政策的課題について発表（５，10）した．加えて医療安全の一環として，ADR（裁判外紛争処理）に関する研究（13）に取り組んだ．

## 病院看護システム管理学

**〔学会発表抄録〕**

1．永野みどり，江幡智栄，緒方泰子，手島恵，櫻井智穂子，山田尚子，向井千晶，徳永恵子，大浦武彦：大規模病院における褥瘡有病率の現状．日本褥瘡学会誌，7(3)，386，2005.
2．黒田豊子，永野みどり，江幡智栄，緒方泰子，手島恵，櫻井智穂子，笹井智子，徳永恵子，大浦武彦：大規模病院が保有する体圧分散寝具台数の現状．日本褥瘡学会誌，7(3)，468，2005.
3．永野みどり，江幡智栄，緒方泰子，手島恵，櫻井智穂子，山田尚子，向井千晶，黒田豊子，笹井智子，徳永恵子：大規模病院の褥瘡対策体制における機能と役割分担．日本病院管理学会学術総会演題抄録集，42（Suppl），77，2005.
4．江幡智栄，永野みどり，緒方泰子，黒田豊子，笹井智子，山田尚子，向井千晶，手島恵，櫻井智穂子，徳永恵子：褥瘡対策チームにおける多職種協働の実態．日本病院管理学会学術総会演題抄録集，42（Suppl），76，2005.
5．小藤幹恵，手島恵，永野みどり，櫻井智穂子：新看護支援システムの活用方法の検討と評価-褥瘡発生予防ケアの有効性評価-．日本病院管理学会学術総会演題抄録集，42（Suppl），75，2005.
6．二見典子，手島恵，永野みどり，櫻井智穂子，高野和也，藤井浩，鈴木玲子，伊藤真実子，中武さやか，長澤裕子，栗山登至：多職種チームに活用されるホスピスケア記録様式の開発．日本病院管理学会学術総会演題抄録集，42（Suppl），84，2005.
7．Lee W., Teshima M., Kim S. & Jeon H.: Needs and Priorities in Nursing Ethics Education in Japan and Korea. 38th Binneal Convention Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing, 2005.

〔報告書〕

8．小山眞理子，相澤和美，浅川明子，伊奈光子，及川郁子，加藤尚美，白水真理子，鶴田惠子，手島恵，原田竜三，廣川聖子，星北斗，和賀徳子：看護基礎教育の改善に関する研究．厚生労働科学研究費補助金-厚生労働科学特別研究事業-平成16年度総括研究報告書，2005.

〔その他〕

9．井部俊子，片田範子，高田早苗，石井トク，横尾京子，高野順子，手島恵：看護学研究における倫理審査体制に関するガイドライン．日看科会誌，25(2)，141-146，2005.

10．永野みどり：褥瘡ケアの質はどのように評価されているか．EBナーシング，5(4)，86-91，(494-499)，2005.

〔研究状況〕

本領域では，平成15年度から始まったプロジェクト研究課題〔褥瘡対策体制における多職種協働システムに関する研究-特定機能病院での実態と課題-〕の一環として，他大学附属病院WOC看護師らなどの研究協力者とともに実態調査の調査結果の分析と成果発表を行なった．並行して，今後予定している訪問調査に向けて調査方法の検討を進めており，訪問調査の実施を計画した．

手島は，韓国，日本，香港，中国，タイ，フィリピンとの共同研究，What is Good Nursing？：看護師が大切な価値と考えることについて日本の調査を分担し，International Congress on Medical Law and The 1st World Conference on Public Health Law & Ethicsのシンポジウムで発表した．また，昨年実施した韓国との共同研究を38th Binneal Convention Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursingで共同発表した（7）．

永野は，研究代表者をつとめる文部科学省科学研究費補助金平成15-17年度基盤研究C〔褥瘡対策体制における病院での多職種の機能を生かす医療サービスの提供システムの検討〕の研究において，昨年実施した大規模調査の結果の分析と来年度の成果発表の抄録作成も含めて成果発表を推進した（1-4）．大規模病院における褥瘡対策の訪問調査の調査項目と調査方法についても，検討を進め，平成17年度内のパイロットスタディ実施に向けて準備をした．また，文部科学省科学研究費補助金平成16-18年度基盤研究B〔老人訪問看護の質評価指標の開発：ベストプラクティスに基づく評価項目策定および標準化（研究代表者：石垣和子)〕の分担者として，褥瘡・スキンケアの領域の中心となり，老人訪問看護の質評価指標を作成および修正をした．厚生労働省研究費補助金平成17年度特別研究事業〔褥瘡ハイリスク患者への専門的看護技術提供に関する実態調査（研究代表者：真田弘美)〕の分担者としても，研究協力者への連絡や調査用紙や方法の開発に携わった．

櫻井は，文部科学省科学研究費補助金課題〔医療機関における患者と家族の意思決定支援システムの構築に関する研究〕に取り組み，実態調査の内容について検討中である．

## 地域高齢者看護システム管理学

〔原　著〕

1．佐藤弘美，細川淳子，田高悦子，酒井郁子，高道香織，天津栄子，金川克子：痴呆性高齢者のグループ回想法において家族とケアスタッフが捉えた意味　回想場面の映像から．石川看護雑誌，2，15-23，2005.

〔学会発表抄録〕

2．八島妙子，渡邉智子，茂野香おる，井上映子，杉田由加里，酒井郁子，吉本照子：介護老人保健施設入所者の生活リズム調整に関する多職種の協働・連携-看護職と介護職の語りから-．日本老年看護学会第10回学術集会抄録集，104，2005.

3．茂野香おる，井上映子，八島妙子，渡邉智子，杉田由加里，酒井郁子，吉本照子：介護老人保健施設入所者の生活リズム調整に関する看護師のアセスメントの視点．日本老年看護学会第10回学術集会抄

録集，105，2005.
4．井上映子，茂野香おる，八島妙子，渡邉智子，杉田由加里，酒井郁子，吉本照子：介護老人保健施設ケアスタッフの生活リズム調整に関するケアの基盤となっている価値観．日本老年看護学会第10回学術集会抄録集，106，2005.
5．吉本照子，酒井郁子，杉田由加里，茂野香おる，井上映子，八島妙子，渡邉智子：介護老人保健施設入所者の生活リズム調整に関する看護・介護職のケア−集団生活への適応の観点から−．日本老年看護学会第10回学術集会抄録集，107，2005.
6．渡邉智子，八島妙子，茂野香おる，井上映子，杉田由加里，酒井郁子，吉本照子：介護老人保健施設での看護・介護職者が有する倫理的ジレンマ−高齢者の生活リズム調整に関して−．第36回日看会抄録集（看護管理），220，2005.
7．遠藤淑美，坂田三允，吉本照子，酒井郁子，杉田由加里：悪性腫瘍を合併した統合失調症患者の施設と看護の実態．第25回日看科会学術集会講演集，170，2005.
8．佐藤紀子，杉田由加里，吉本照子：高齢者の家族介護者が在宅介護の価値を見出しながら，主体的に介護を含めた生活を維持・継続していくための看護実践知の創出−研究成果のメタ統合（その１）−．日本地域看護学会第８回学術集会講演集，95，2005.
9．吉本照子，柳澤尚代，波川京子，阿部芳江：在宅高齢者における配食ボランティアサービスの活用と利用者としての役割遂行の実態．日公衛会抄録集，816，2005.
10．柳澤尚代，吉本照子，波川京子：配食ボランティアの役割認識　保健福祉職への期待と対応に関する認識．日公衛会抄録集，559，2005.
11．柳澤尚代，吉本照子，波川京子：配食ボランティアが行っている利用者とのコミュニケーションに関する考えと工夫．日本地域看護学会第８回学術集会講演集，100，2005.
12．Yanagisawa H., Yoshimoto T.& Namikawa K.: Expectations of meal distribution volunteers for information activities in health and welfare. The 3rd International Conference on Community Health Nursing Research, Japan, Program and abstracts, 163, 2005.
13．酒井郁子，佐藤弘美，田高悦子，金川克子，天津栄子，細川淳子，高道香織，伊藤麻美子：認知症高齢者の回想法評価のための映像媒体の開発．日本老年看護学会第10回学術集会抄録集，152，2005.
14．杉田由加里：居宅介護支援事業者の介護支援専門員が認識しているケアマネジメントの学習ニーズ．日本ケアマネジメント学会第４回研究大会抄録，21，2005.
15．伊藤まさ子，阿曽久範，花沢由美子，酒井郁子：看護師との相互作用が困難な関節リウマチ患者に対して援助関係が成立するために看護師が用いていた看護技術．第36回日看会抄録集（成人看護Ⅱ），199，2005.

**〔報告書〕**

16．吉本照子，波川京子，阿部芳江，酒井郁子，杉田由加里，柳澤尚代，前川厚子，疋田理津子，森下浩子：在宅高齢者の生活意欲と日常生活行動に配食ボランティアサービスの利用が及ぼす影響（研究代表者：吉本照子），課題番号：13470523，平成13年度−平成16年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書，2005.
17．吉本照子：医歯薬学分野に関する学術動向の調査・研究；看護学研究に関するpeer　reviewの実態と課題．独立行政法人日本学術振興会平成16年度委託研究実績報告書，2005.
18．金川克子，天津栄子，佐藤弘美，田高悦子，酒井郁子，細川淳子，高道香織，伊藤麻美子：平成15−16年度科学研究補助金基盤研究(B)(2)　痴呆性高齢者における回想法の意義と有効性に関する実証的研究（研究代表者：金川克子），課題番号15390682　2005.
19．諏訪さゆり，酒井郁子，松浦美知代，斎藤素江，湯浅美千代，吉本照子，根本敬子，菅谷綾子：平成16年度老人保健健康増進等事業報告書　地域での各種サービスのあり方とサービスの質の確保に関する研究「医療依存度の高い認知症高齢者のケアにおける介護保険事業所との連携に関する研究事業」，認知症介護研究・研修東京センター（研究代表者：諏訪さゆり），2005.

〔単行書〕

20. 吉本照子：看護学の発展の方向性．環境との相互作用がもたらす健康問題．他職種との連携・協働と看護の継続．佐藤禮子（編）　看護学概説，改定版，放送大学教育振興会，26-34，61-70，142-151，2005.
21. 酒井郁子：４章身体運動機能の障害と看護①老年期の審田引導機能の障害と看護，②移動機能の障害と看護，③手指機能の障害と看護，第６章治療・処置と看護　③理学・作業・言語聴覚療法を受ける高齢者への援助．金川克子・野口美和子（監），野口美和子（編）　最新高齢者看護プラクテイス　疾病・障害を持つ高齢者の看護．中央法規出版，120-169，227-235，2005.
22. 酒井郁子：Ⅰリハビリテーションは誰のために　１章援助の前提-「私」を理解する　３看護師となる「私」Ⅱ障害をもった個人を対象とする援助　５章セルフケアエージェンシーを育む　１移動に関するセルフケア　リハビリテーションにおける転倒予防　Ⅳリハビリテーションと看護の未来に向けて　11章リハビリテーションと看護の過去，現在，未来を見通す　２リハビリテーションと看護の幸福な関係．酒井郁子(編)超リハ学-看護援助論からのアプローチ．文光堂，31-43，164-172，431-437，2005.
23. 島田広美，酒井郁子：脳卒中患者の学習ニーズと教育プログラム．酒井郁子（編）超リハ学―看護援助論からのアプローチ．文光堂，258-269，2005.
24. 吉本照子：インタープロフェッショナルワークによる専門職の役割遂行．リハビリテーションゴールとしての地域づくり．酒井郁子（編）超リハ学-看護援助論からのアプローチ．文光堂，95-107，353-367，2005.
25. 綿貫成明，杉田由加里，酒井郁子：Ⅱ障害をもった個人を対象とする援助　５章セルフケアエージェンシーを育む　１移動に関するセルフケア　脳血管障害患者の自動車移動と運転．酒井郁子（編）超リハ学-看護援助論からのアプローチ．文光堂，173-190，2005.

〔その他〕

26. 田高悦子，金川克子，天津栄子，佐藤弘美，酒井郁子，細川淳子，高道香織，伊藤麻美子：認知症高齢者に対する回想法の意義と有効性　海外文献を通して．老年看護学，９(2)，56-63，2005.
27. 佐藤弘美，金川克子，天津栄子，田高悦子，酒井郁子，細川淳子，高道香織，伊藤麻美子：認知症高齢者のグループ回想法場面の編集映像がもたらす家族やケアスタッフへの効果．日本老年看護学会誌，10(1)，105-115，2005.
28. 吉永亜子，吉本照子：睡眠を促す援助としての足浴についての文献検討．日本看護技術学会誌，４(2)，４-13，2005.
29. 吉本照子：看護学研究の発展を促すための論文査読システムの課題．千葉看護学会誌，11(2)，48-49，2005.
30. 酒井郁子：日本老年看護学会第９回学術集会特集，高齢者の幸せ（QOL）を支え続けるリハビリテーション看護の可能性．日本老年看護学会誌，９(2)，22-27，2005.
31. 湯浅美千代，酒井郁子，大塚真理子：第９回学術集会インフォメーション・エクスチェンジ報告　老年看護研究の倫理　グループ討議のまとめ-参加者たちがもつ老年看護研究を行ううえでの倫理的課題と解決策．老年看護学会誌，10(1)，155-162，2005.
32. 酒井郁子：地域を支え地域で支持される病院の要件．看護管理，15(6)，448-452，2005.
33. 吉本照子：看護管理者に期待される地域連携スキルの開発．看護管理，15(6)，470-475，2005.
34. 杉田由加里：介護老人保健施設の看護職者が捉えている高齢者の生活リズム調整に関する援助．千葉大学21世紀COEプログラム　日本文化型看護学の確立に向けて-実践知の抽出と統合-第２回COEシンポジウム，30-31，2005.
35. 伊藤まさ子，阿曽久範，花沢由美子，酒井郁子：看護師との相互作用が困難な関節リウマチ患者に対して援助関係が成立するために看護師が用いていた看護技術．第36回日看会論文集（成人看護Ⅱ），392-394，2005.
36. 吉本照子：７つの設計提案にみられた主張と協働のプロセス．蘇我臨海部におけるサステナブル・ハウジングの『かたち』とは；千葉県内建築系大学学生による住宅地開発計画のための設計提案，56,

2005.
37. 吉本照子：介護老人保健施設における看護管理．日本老年看護学会第10回学術集会抄録集，58，2005.
38. 酒井郁子：術後せん妄の予防とケア．第５回日本整形外科看護研究会学術集会抄録集，34，2005.
39. 酒井郁子：教育講演　整形外科領域における高齢者せん妄予防対策と発症時の看護．東日本整形災害外科学会雑誌，17(3)，269，2005.

**〔研究状況〕**

本領域では，地域高齢者看護のシステム化に関する知識・技術について，介護予防，リハビリテーション看護，ケアマネジメントの観点から研究を行っている（32-33）．本年は，介護老人保健施設（老健）利用者の生活リズムの調整に関して報告した（２－６，34）．吉本・酒井は，医療依存度の高い認知性高齢者のケアに関する老健と医療機関の連携について報告した（19）．

吉本は，配食サービス利用者・ボランティア・保健福祉職者各々の立場からみた高齢者の自立支援の実態と連携の課題（９-12，16），災害時の障害者に対する支援システムの構築過程について報告し（24），高齢者ケアの立場から工学分野のまちづくり企画に協力した（36）．老健の看護管理に関する実践者と研究者の交流集会を企画・実施した(37)．加えて論文査読システムの方法と課題について報告した(17，29)．

酒井は，医療依存度の高い痴呆性高齢者のケアのあり方に関する研究（19），痴呆性高齢者における回想法の意義と有効性に関して報告した（１，13，18，26-27）．介護保険施設におけるリスクマネジメントに関して介入研究を行っている．またせん妄と転倒（38-39），抑制の関連について調査を開始した．研究代表者（科学研究補助金基盤研究(C)）として回復期リハビリテーション病棟における高齢脳卒中患者のQOL向上を促進する看護援助の効果について研究を行っている．またリハビリテーションと看護に関して単行書を編集執筆した（22-23）．COEプログラムに参画し，成果をまとめている．

杉田は，研究代表者（文部科学省科学研究費補助金（若手研究Ｂ））として，介護支援専門員のケアマネジメントに対する自己評価，学習ニーズについて報告し（14），在宅療養支援を期待されている老健の看護職者が捉えている高齢者の生活リズム調整に関する援助について文化の視点をとりいれて報告した（34）．